

令和4年度第1回上越市食育推進会議 次第

日時:令和5年2月16日(木)

午後2時から

会場:上越文化会館 大会議室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 会長選出

4 議 事

(1) 上越市食育推進会議及び第4次上越市食育推進計画について

(2) 令和4年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の進捗状況
について

(3) 令和5年度アクションプラン（案）について

5 意見交換（各委員の食育に関する思いや活動について）

6 閉 会

上越市食育推進会議委員名簿

(令和4年7月26日～)

No.	氏名	選出区分	備考	
1	内山 一晃	学識経験者	上越医師会理事（内山医院院長）	
2	松井 千鶴子	学識経験者	上越教育大学学校教育研究科教授	新任
3	小林 綾子	学識経験者	新潟県立看護大学講師	
4	保坂 哲	学識経験者	新潟県立高田北城高等学校長	新任
5	泉 真理	学識経験者	上越市立上下浜小学校長	新任
6	田中 清美	学識経験者	上越市立南川保育園長	新任
7	飯塚 恵子	公募に応じた市民		新任
8	王 鑫	公募に応じた市民		新任
9	鳥越 香菜子	事業者	えちご上越農業協同組合 営農部地域ふれあい課	新任
10	山宮 斉	事業者	株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 総合渉外部 新潟北陸地区 渉外担当	新任
11	蓑輪 若奈	事業者	株式会社 Amaya farm 農園従業員 上越地域農業者グループ「ひかり」 副会長	新任
12	亦野 潤一	事業者	えちご上越農業協同組合 上越あるるん村 旬菜交流館 あるるん畑 店長	新任
13	信田 紘基	事業者	上越市地産地消推進の店「居食屋 YAGAIYA」代表	新任
14	土井 麻美	食育関係団体の代表者	新潟県栄養士会上越支部 (上越市立有田小学校 栄養教諭)	新任
15	松井 和代	食育関係団体の代表者	上越市総合型スポーツクラブネット運営委員	
16	大山 仁	市の職員	健康子育て部長	
17	空 周一	市の職員	農林水産部長	
18	市川 均	市の職員	教育部長	

Plan (計画)

食育基本法の制定 (H17年度)

上越市食育推進条例の制定 (H18年度)

上越市食育推進計画の策定 (H19年度～H23年度)

第2次上越市食育推進計画の策定 (H24年度～H28年度)

第3次上越市食育推進計画の策定 (H29年度～R3年度)

第4次上越市食育推進計画の策定 (R4年度～R8年度)

- 基本理念(目指す姿)
生涯にわたり心身ともに健康で充実した生活を送れるまち
- 基本目標
市民一人一人が自らの健康に関心を持って食を選びとっていく力を身に付ける

上越市食育推進実施計画の策定 (アクションプラン) (R4年度～R8年度)

- ・食育推進計画の施策に基づいた事業実施
- ・事業の進捗管理により、毎年更新

次年度のアクションプラン、食育推進事業に反映

Do (実行)

行政の取組

健康づくりでの取組

- ・ライフステージに応じた保健指導
- ・ライフステージに応じた歯科保健指導の推進

保育園での取組

- ・乳幼児期の食育推進
- ・ライフステージに応じた保健指導
- ・歯科保健事業の推進

学校教育での取組

- ・学校における食育の推進
- ・ライフステージに応じた保健指導
- ・歯科保健事業の推進
- ・地域食材による給食の提供

社会教育での取組

- ・地域の食文化の継承に向けた普及啓発

産業振興での取組

- ・発酵食品文化の情報発信と次世代への継承

農林水産業での取組

- ・地産地消の推進
- ・農林漁業体験等の情報提供
- ・食の安全に関する取組
- ・環境保全型農業の推進

情報発信等による取組

- ・「上越の食育」HP等による情報発信
- ・食育の実践発表の場の設定

連携

- ・市内食育関係団体・組織の取組
- ・食育推進会議各委員の取組

【事業効果】

- ・市民への食育の普及
- ・生涯にわたり心身ともに健康な市民の増加
- ・食育推進関連団体、上越市食育推進会議を通じた食育の「実践」の定着に向けた取組の強化

Action (改善)

食育推進会議による意見の反映

事業実施を通しての改善点

市民アンケート結果の反映

Check (点検)

市民の食育に関連する調査等

- 食育に関する市民アンケート
【内容】
・市民の食育に対する関心や知識の現状と食育を実践している市民の割合を把握し、今後も全市民的運動として食育を推進していく上での施策の参考とするため、市民に対して隔年でアンケート調査を行う。(R5、R7年度)
【対象者】
・満18歳以上の市民3,000人を無作為抽出
【調査方法】
・郵送によるアンケートの配布及び回収
【調査結果の活用】
・食育推進計画指標目標値、アクションプランの進捗管理
・次期食育推進計画
- その他調査
・ライフスタイル調査(市内小中学校)
・健康診査

食育推進会議による評価・検証

- 【委員構成】
・学識経験者(6人)、公募委員(2人)、事業者(5人)、食育関連団体(2人)、市の職員(3人)
- 【内容】
■年度当初会議
・当該年度のアクションプランの確認
・前年度と比較した事業の改善点の報告
・次年度アクションプランに向けた意見交換
・各委員の食育活動の情報共有と連携に向けた意見交換
・その他、市の食育推進に関する重要事項の審議
- 年度末会議
・当該年度のアクションプランの進捗管理
・食育推進計画指標項目の取組状況確認
・各委員の食育活動の情報共有と連携に向けた意見交換
・その他、市の食育推進に関する重要事項の審議

■第4次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移（R4年12月末現在）

令和5年2月16日
上越市食育推進会議
資料 NO. 2

【基本方針1】生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します

(1) 一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立

指標項目	策定時 (R3)	R4	目標値 (R8)	県 (R1→R6)	国 (R2→R7)	
1 朝食を欠食する市民の割合 (全く食べない+あまり食べない)	小学生	3.1%	3.1%	0%	3.3% →0%	4.6% (R1) →0%
	中学生	5.2%	5.3%	0%	—	
	高校生	5.2%	—	3%	—	—
	若い世代 (20~39歳)	7.3%	—	6%	19.8% →15%	21.5% →15%以下
2 虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	96.3%	96.3%	95%	90.4% (H30) →95%	—
	12歳	90.5%	90.5%	90%	84.4% →90%	—
	17歳	79.6%	79.6%	80%	—	—
3 ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	45.8%	—	70%	—	47.3% →55%以上	
4 適正体重を維持している市民の割合	20歳代~60歳代の男性	49.5%	48.1%	変更前: 75% 変更後: 50%	—	—
	20歳代~60歳代の女性	45.3%	43.8%	変更前: 85% 変更後: 45%	—	—
5 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合	57.0%	—	72%	—	64.3% →75%以上	

(2) 家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

指標項目	策定時 (R3)	R4	目標値 (R8)	県 (R1→R6)	国 (R2→R7)	
1 朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数	週9回	—	平均11回以上	—	週9.6回 →週11回以上	
2 普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合	82.8%	—	90%以上	—	—	
3 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	全世代	43.6%	—	80%	44.6% →80%	36.4% →50%以上
	若い世代 (20~39歳)	29.0%	—	55%	32.2% →55%	27.4% →40%以上
4 地域等で共食したいと思う人が共食する割合	42.0%	—	75%	—	70.7% →75%以上	

【基本方針2】家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

指標項目	策定時 (R3)	R4	目標値 (R8)	県 (R1→R6)	国 (R2→R7)
1 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	67.3%	—	75%	—	50.4% →55%以上
2 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代 (20歳~39歳) の市民の割合	61.8%	—	65%	—	—
3 郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合	46.9%	—	50%以上	—	44.6% →50%以上

【基本方針3】食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりを推進します

指標項目	策定時 (R3)	R4	目標値 (R8)	県 (R1→R6)	国 (R2→R7)
1 食育に関心を持っている市民の割合	77.7%	—	90%以上	56.6% →90%	83.2% →90%以上
2 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	69.0%	—	90%	75.2% →80%以上
	若い世代 (20~39歳)	63.7%	—	70%	—

【基本方針4】食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します

指標項目	策定時 (R3)	R4	目標値 (R8)	県 (R1→R6)	国 (R2→R7)
1 学校給食で地場産物 (青果物) を使用する割合	18.0%	14.45% (2学期末)	20%	—	—
2 地域食材を積極的に活用する飲食店 (地産地消推進の店) の認証店数	173軒	167軒	180軒以上	—	—
3 環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	63組織 929ha	38組織 775ha	91組織 1,473ha	—	—
4 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	58.0%	—	75%以上	—	—
5 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	91.1%	—	92%以上	R3把握 →80%	76.5% →80%以上

令和5年2月16日
上越市食育推進会議
資料 NO. 3

令和4年度
上越市食育推進実施計画
(アクションプラン)
進捗管理表【R4年12月末現在】

上 越 市

■アクションプラン一覧

ページ	事業No.及び事業名	事業担当課
1	1 妊産期の食育推進	健康づくり推進課
2	2-1 乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課
3	2-2 乳幼児期の食育推進	保育課
4	2-3 乳幼児期の食育推進	学校教育課
5	3-1 学童期・思春期の食育推進	健康づくり推進課、学校教育課
6	3-2 学童期・思春期の食育推進	農政課
7	4 青年期・壮年期の保健指導事業	健康づくり推進課
8	5 高齢期の保健指導事業	健康づくり推進課
9	6-1 健全な食習慣の推進	健康づくり推進課
10	6-2 健全な食習慣の推進	保育課
11	6-3 健全な食習慣の推進	学校教育課
12	7-1 歯科保健事業の推進	健康づくり推進課
13	7-2 歯科保健事業の推進	保育課
14	7-3 歯科保健事業の推進	学校教育課
15	8 メタボリックシンドロームの予防・改善	健康づくり推進課
16	9 適正体重維持の推進	健康づくり推進課
17	10 生活習慣病の予防	健康づくり推進課
18	11 身体活動や運動習慣の確立	健康づくり推進課
19	12-1 親子で参加・体験できるイベント等の実施	農政課
20	12-2 親子で参加・体験できるイベント等の実施	農村振興課
21	13 食生活の改善に必要な情報提供	農政課
22	14 家庭での共食についての啓発	農政課
23	15 在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供	農政課
24	16 保育園での食の体験活動	保育課
25	17 幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課
26	18 学校における食育活動の充実	学校教育課
27	19 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課
28	20 小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	学校教育課
29	21 栄養バランスを意識した食生活の推進	健康づくり推進課
30	22 日本型食生活の普及活動	農政課
31	23 地域や職場での共食の有効性の発信	農政課
32	24 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課
33	25 謙信KIDSプロジェクト	社会教育課
34	26 「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター
35	27 SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承	農政課
36	28 地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	教育総務課
37	29 食育関係団体の食育活動の集約と情報発信	農政課
38	30 健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課
39	31 食育に関する積極的な情報提供	農政課、関係課
40	32 学校給食だよりの発行による情報提供	教育総務課
41	33 「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	農政課、関係課
42	34 食育実践セミナーの開催	農政課、関係課
43	35 デジタル技術を活用した食育情報の発信	農政課
44	36 食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課
45	37 農林水産物等の放射性物質等の情報発信	農村振興課、農林水産整備課
46	38 食品表示に関する普及啓発	農村振興課
47	39 地場産物(青果物)を使用した給食の提供	教育総務課、農政課
48	40 上越産農産物等の情報発信	農村振興課
49	41 地産地消推進の店認定事業	農政課
50	42 農産物直売所と消費者のつながり強化	農村振興課
51	43 農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課
52	44 都市・農村交流促進	農村振興課
53	45 環境保全型農業の推進	農政課
54	46 環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起	農政課
55	47 食品ロス削減に向けた取組の推進	農政課

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	1 妊産期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活がわかり、両親の将来の生活習慣病予防につながる食に関する知識を提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊産婦等へ食育の啓発を行う。				
目 標	低出生体重児の割合の減少				
目標に対する実績(見込み)	低出生体重児の割合 9.0% (R4.10月現在市推計値)				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠や出産、育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。あわせて、妊婦とその家族に対し、食生活の重要性を理解し、生活の中で取り組めるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、「食生活の見直しができた」「普段の食事を意識して、一工夫してみようと思った」等、生活と食べ方を結びつけた感想が聞かれた。 ・低出生体重児の割合 R2年 10.1% R3年(市推計値) 9.8% R4年(市推計値) 9.0%
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 低出生体重児の割合は市推計値では、年々減少してきている。</p> <p>【課題】 妊娠期において食生活の重要性を理解することは、妊婦とその家族だけでなく、出産後の子どもの生涯を通じた健康づくりにも影響を与えることから、引き続き、食生活や生活リズム等の生活習慣の重要性について、理解を深める支援を継続していく必要がある。</p>

事業No.及び事業名	2-1 乳幼児期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	乳幼児健診、離乳食相談会、訪問等を実施し、健全な食生活の啓発を行う。				
目 標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす				
目標に対する実績 (見込み)	肥満児の割合 <u>5.6%</u> やせの割合 <u>0.2%</u> (R4.12月現在見込)				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会や乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあつた食生活や3歳までの適正な体重の伸びについて、健康教育を実施した。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問により保護者への支援を実施した。 ・肥満傾向児の割合を減らすため、すべての乳幼児健康診査において、肥満度の算出及び成長曲線への記録を行い、保護者自らが子どもの体重の伸びを視覚的に確認できるように支援した。また、1歳児健康診査以降の全ての幼児健康診査において、個別の栄養相談による支援を行った。 ・3歳児健康診査における状況 肥満傾向児の割合 令和3年度 6.6%→令和4年度 <u>5.6%</u> (12月末現在) やせの割合 令和3年度 0.4%→令和4年度 <u>0.2%</u> (12月末現在)
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 R3年度と比較し、R4年12月末現在では、3歳児健診における肥満傾向及びやせの児の割合は減少してきている。</p> <p>【課題】 ・幼児期の肥満が学童期の肥満につながっていくことから、引き続き、3歳児健康診査までの各健診において、生活リズムや成長発達にあわせた食生活について保健指導を実施していく必要がある。</p> <p>・「成長曲線」を活用して保護者自らが子どもの体重の伸びを確認できるよう支援していく必要がある。</p>

事業No.及び事業名	2-2 乳幼児期の食育推進
事業担当課	保育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園及び認定こども園において、保護者が子の発育状態を視覚的に確認するため、「成長曲線」を活用した取組を行う。 ・ 肥満傾向の園児には保護者面談等の支援を行う。 				
目 標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす				
目標に対する実績 (見込み)	3歳以上児 肥満の割合 男 3.74% 女 5.86% やせの割合 男 1.2% 女 1.5% ※R4.6月調査値 公立保育園(34園)				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園及び認定こども園において、成長曲線を活用し、保護者が園児の身長・体重を自ら記入し、発育状況と肥満度の確認を実施することを促した。 ・ 肥満傾向の園児には保育園と地区担当保健師・栄養士が連携し、保護者面談等で幼児期の成長特性を考慮し、生活リズムや食の支援を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 今年度、公立から民営化された4園分がデータに入らないため、昨年度とのデータの対比は困難と思われる。(母数で500人減)</p> <p>参考：令和3年度 肥満の割合 男 5.23% 女 5.73% やせの割合 男 1.07% 女 1.37%</p> <p>【課題】 ・ 肥満度が上昇するほど、改善が困難であることから、予防の観点から1~2歳児からの早期介入及び継続的な支援が必要である。 ・ 肥満、やせの減少に向けて成長曲線を活用しながら適切な時期に保護者と保育園が連携し、園児の生活リズムや食事、運動遊びの支援を充実させる必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	2-3 乳幼児期の食育推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園において、日常的に紙芝居や絵本などを用いて望ましい食習慣が身に付くよう指導する。 ・「成長曲線」を活用し、肥満傾向にある園児について、保護者と面談して栄養指導等を実施する。 				
目 標	【2-1、2-2、2-3共通】 肥満、やせの子どもを減らす				
目標に対する実績 (見込み)	3歳以上児 肥満・やせの割合： 前年度からの増加なし ※R4.6月調査値 市立幼稚園（1園）				
目標達成状況	概ね達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園において、成長曲線を活用し、肥満傾向にある幼児の経過観察を行った。 ・肥満傾向の園児には担任と養護教諭が連携し、保護者面談等で幼児期の成長特性を考慮した生活リズムや望ましい食生活について啓発した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 肥満・やせの割合の増加は見られなかった。 ※対象者が少なく個人が特定されるおそれがあるため、数値を公表しない。</p>
	<p>【課題】 ・成長曲線を活用し、保護者と連携を図りながら、園児の健やかな発育を支援する。予防的な観点も踏まえて、園児の望ましい生活リズムや食事、運動遊びの啓発を継続する必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	3-1 学童期・思春期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課、学校教育課
取組の概要	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体に合わせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	学校保健委員会や授業の中で身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行う。				
目 標	保健指導により、食に関する正しい知識を持った児童・生徒を増やす。				
目標に対する実績 (見込み)	生活習慣病予防講座 実施校 6校 食に関する保健指導の実施 66校				
目標達成状況	概ね達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><健康づくり推進課> 思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した有恒高校、南城高校、高田特別支援学校、吉川高等特別支援学校、高田高校、上越総合技術高校の6校で実施した。講座の内容は養護教諭等と連携し、各学校の生徒の実態にあわせたものとした。 R3年度実施校 4校 R4年度実施校 6校(見込み)</p> <p><学校教育課> ・健康づくり推進課と連携し、血液検査事業の一環である血液検査事前指導や事後指導による保健指導を通じて身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行った。 ・学校保健委員会や授業の中で、身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行った。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 <健康づくり推進課> 昨年度より2校多く、生活習慣病予防講座を実施することができた。</p> <p><学校教育課> 保健指導を通じて、食に関する正しい知識を持った児童生徒が増えた。</p> <p>【課題】 <健康づくり推進課> 各学校生徒の実態や課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態にあわせた食の選択力や実践力をつけていく取組を継続していく。また、未実施校に向けて、取り組んでもらえるよう働きかけを行う必要がある。</p> <p><学校教育課> 保健指導について、他の教育活動において関連付けを図るとより効果的である。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	3-2 学童期・思春期の食育推進
事業担当課	農政課
取組の概要	高校生の食に対する意識向上を図るため、高等学校の要望に沿った講師を派遣し、部活動やクラス活動、授業等の時間を活用して食育に関する講義や調理実習を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内高等学校において、高校生の食に対する意識の向上を図る食育に関する講義や調理実習を行う。				
目 標	食育に関する講義や調理実習を行う市内高等学校数 3校以上				
目標に対する実績 (見込み)	食育に関する授業を行った高等学校数 <u>1校</u>				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><高等学校における食育授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：5月12日(木) ・対 象：県立高田農業高等学校生物資源科森林資源コース 2年生 20人 ・内 容：課外授業として、上越地域の山菜の活用や郷土の食文化について理解を深めるため、桑取地区でウドの採取と手入れ体験を行ったほか、地域の方から山菜や山菜料理の講話を聞き、試食を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>コロナ禍において、これまで通り課外授業をすることが難しい状況の中、桑取の自然を感じながら山菜の採取から食すまでを高校生に体験してもらい、山菜の調理方法やおいしさ、上越の食文化を知ってもらえる機会とすることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知不足により、希望する高校が1校のみとなった。 ・事業については、高校へ直接働き掛けるなど、年間を通じた事業周知を行うとともに、高校の授業以外のクラブ活動などでも活用してもらえるよう、魅力ある事業内容の検討が必要である。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	4 青年期・壮年期の保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	自身の食習慣と身体状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心掛け、生活習慣病の予防を啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
目 標	特定保健指導実施率の増加				
目標に対する実績 (見込み)	令和2年度 61.7% 令和3年度 63.3% ※指標とする法定報告値は、翌年12月に公表				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・健診結果説明会 令和3年度 271回 参加者数4,704人 令和4年度 216回 参加者数3,845人(12月末現在) ・健康講座 令和3年度 191回 参加者数5,405人 令和4年度 276回 参加者数5,716人(12月末現在) ・生活習慣病予防の訪問、個別保健指導 令和3年度 延べ8,260人 令和4年度 延べ6,335人(12月末現在)
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 健康講座の実施回数、参加者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。</p> <p>【課題】 対象者が具体的な生活改善を考えていくには、自分の身体の状態を理解することが必要なため、健診受診についての啓発を継続し個別保健指導につなげていく必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	5 高齢期の保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	高齢期の心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状態を考え合わせながら、健康維持・生活習慣病の重症化予防のために必要な適正な食事量の摂取について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、高齢期における適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
目 標	適正体重（日本人食事摂取基準：BMI21.5～24.9）の高齢者（65歳以上）を増やす。				
目標に対する実績（見込み）	令和3年度 41.3% 令和4年度 41.0% (12月末現在)				
目標達成状況	概ね達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛けた。 ・高齢者を対象とした健康講座 令和3年度 62回 参加者数742人 令和4年度 60回 参加者数758人（12月末現在） ・後期高齢者の生活習慣病重症化予防対象者（高血圧、糖尿病、心房細動）への保健指導 令和3年度 延べ585人 令和4年度 延べ530人（12月末現在）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 健康講座参加者、保健指導実施者数が増加した。各事業の保健指導により、生活習慣病予防のために、適正な体重や食事量等の必要性について働き掛けることができた。</p> <p>【課題】 生活習慣病の重症化予防、介護予防のため、青年期・壮年期と同様に高齢期においても健診受診や保健指導の取組を継続していく必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	6-1 健全な食生活の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
目 標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 —	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 —	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 —
目標に対する実績(見込み)	朝食を欠食する割合 小学生 3.1% 中学生 5.3% 若い世代 —				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健康診査、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康講座)、成人期・高齢期(企業での健康教育、各地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者等の食生活実態調査から、若い世代に朝食欠食の傾向が見られる。</p>
	<p>【課題】 乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症が懸念されることや、低栄養による要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を継続して実施する必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	6-2 健全な食生活の推進
事業担当課	保育課
取組の概要	保育園での様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	保育園で行う「健康教育講座」や「家庭用給食だより」、「食育集会」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
目 標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -
目標に対する実績 (見込み)	朝食を欠食する割合 小学生 3.1% 中学生 5.3% 若い世代 -				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園において地区担当保健師・栄養士が保護者や祖父母を対象に園児の生活リズムや食生活に関する健康教育講座を年1回実施した。また各園で実施される「食育集会」では園児に朝食をとることの必要性の啓発を実施した。 ・家庭配布用給食だよりや各園で作成される食育だよりで朝食をとることの必要性に関する内容についても啓発を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 保育園における目標に対する実績測定値がないため評価不可</p> <p>【課題】 ・朝食に菓子パン、菓子、ふりかけご飯等の単品のみ食べて登園する園児がいることから、今後は「朝食の質の向上」に向けて食品の選択や組み合わせについて啓発していく必要がある。</p> <p>・引き続き、園児・保護者・祖父母に向けた健康教育講座や食育集会の取組を継続し、朝食摂取の必要性について啓発を継続的に実施する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	6-3 健全な食生活の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	全ての小中学校の様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
目 標	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.8%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.2%	【6-1、6-2、6-3共通】 朝食を欠食する市民を減らす。 小学生 0% 中学生 0% 若い世代 -
目標に対する実績 (見込み)	朝食を欠食する割合 小学生 3.1% 中学生 5.3% 若い世代 -				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発した。また、必要に応じて個別の保健指導内容にも含めた。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 R3年度との比較としては、小学生増減なし、中学生0.1%増であり、一定数の割合に朝食欠食が見られる。</p> <p>参考：令和3年度 朝食を欠食する割合 小学生 3.1% 中学生 5.2% 若い世代 7.3% [食育市民アンケート結果]</p> <p>【課題】 一定数見られる児童生徒の朝食欠食について改善を図ため、引き続き朝食をきちんととることの必要性についての啓発を実施する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	7-1 歯科保健事業の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる歯科保健教育の中で、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上				
目標に対する実績 (見込み)	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.3% 12歳：90.5% 17歳：79.6%				
目標達成状況	概ね達成				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)
	—	55%	—	65%	70%
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診等において、オーラルトレーニングや生活リズムと食習慣の形成について啓発を行った。また、歯科健診と個別ブラッシング指導、希望者へのフッ化物塗布を実施した。 ・高等学校における歯肉炎予防講座において、定期的な歯科健診や歯間部清掃のすすめ、ブラッシング指導を実施した。 ・成人歯科健康診査において、歯科健診と口腔ケアについて指導を行った。 ・保育園や地域における歯周病予防講座において、年代に応じた歯周病の発症予防やオーラルフレイについて啓発を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 虫歯のない児童・生徒の割合は増加傾向である。</p> <p>【課題】 歯や口腔の健康を守るための生活リズム及び食習慣が乱れてきていることから、歯周病の発症が低年齢化している。引き続き、関係機関と課題の共有を図り、連携してライフサイクルに応じた保健指導の実施と定期的な歯科受診の必要性等について啓発を行っていく。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	7-2 歯科保健事業の推進
事業担当課	保育課
取組の概要	保育園の様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	・保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。 ・給食の時間において、園児がよく噛んで食べるができるよう支援する。				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上				
目標に対する実績(見込み)	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.3% 12歳：90.5% 17歳：79.6%				
目標達成状況	概ね達成				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 55%	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 65%	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 70%
目標に対する実績(見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】概ね計画通り実施した。
	【課題】引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。

事業No.及び事業名	7-3 歯科保健事業の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	市立幼稚園、小中学校の様々な場面でよく噛んで食べる習慣について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、ブラッシング指導や健康な歯を保つための取組を行う。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛んで食べることができるよう指導する。 				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。 3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上				
目標に対する実績(見込み)	虫歯のない児童・生徒の割合 3歳：96.3% 12歳：90.5% 17歳：79.6%				
目標達成状況	概ね達成				
目 標	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)	【7-1、7-2、7-3共通】ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。 (食育市民アンケート結果)
	—	55%	—	65%	70%
目標に対する実績(見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛んで食べることの指導を実施した。 ・市立幼稚園においては、「にいがた健口文化推進月間」に合わせ、よくかんで食べることについて、集会における指導や掲示物による啓発を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 全ての市立幼稚園、小中学校で事業を実施した。 参考：12歳むし歯有病者率 R3 11.2% (R2 11.7%) 【課題】 引き続き、市立幼稚園、小中学校での取組を継続していく。

事業No.及び事業名	8 メタボリックシンドロームの予防・改善
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	メタボリックシンドロームにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善方法について啓発する。				
目 標	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少				
目標に対する実績(見込み)	高血圧Ⅱ度以上者 63.1% HbA1c6.5%以上者 43.7% LDLコレステロール140mg/dl以上者 55.0%				
目標達成状況	概ね達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>健診結果説明会、生活習慣病予防講座等でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善について啓発を行った。</p> <p><健診結果が改善した人の割合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高血圧Ⅱ度以上者 令和3年度 65.2% → 令和4年度 63.1% (12月末現在) ・HbA1c6.5%以上者 令和3年度 42.4% → 令和4年度 43.7% (12月末現在) ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 令和3年度 53.3% → 令和4年度 55.0% (12月末現在)
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 年度途中の集計のため、改善しているかの判断はまだできないが、健診結果の基準値以上の検査数値の改善割合は昨年度と同様に約半数である。</p> <p>【課題】 今後も引き続き、訪問や健診結果説明会などで保健指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や医療機関への受診勧奨を促す。</p>

事業No.及び事業名	9 適正体重維持の推進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	肥満や痩せすぎにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健診結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善方法について啓発する。				
目 標	適正体重を維持している市民を増やす。 男性 50% 女性 45%				
目標に対する実績 (見込み)	適正体重を維持している人の割合 男性 48.1% 女性 43.8%				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りが無いかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。</p> <p><適正体重を維持している人の割合></p> <ul style="list-style-type: none"> 20歳代～60歳代の男性 令和3年度 49.5% → 令和4年度 48.1% (R4.12月末現在) 20歳代～60歳代の女性 令和3年度 45.3% → 令和4年度 43.8% (R4.12月末現在)
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度途中の集計のため、適正体重を維持しているかの判断はまだできないが、維持している割合は昨年度と同様の割合である。 令和2年4月から「日本人の食事摂取基準」に高齢者の低栄養予防・フレイル予防が加わり、65歳以上のBMI下限が引き上げられ、各年代の目標とするBMIの範囲が示されたため新基準で記載をする。 <p><令和2年度までの適正体重とされるBMI値></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降 20歳～60歳代=18.5～24.9 20歳～49歳=18.5～24.9 50歳～64歳=20.0～24.9 64歳～69歳=21.5～24.9 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性の肥満の割合が多い。 肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等の摂取状況を確認し食習慣の改善に結びつくように支援していく。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	10 生活習慣病の予防
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	健診結果から対象者を特定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各種教室を開催し、生活習慣病の予防について普及・啓発する。				
目 標	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 60%以上	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 64%以上	生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 66%以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を3コース(1コース2回)、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を随時実施。 令和4年度検査実施者数：18人(12月末現在) ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するため、個別訪問を実施。 令和4年度訪問数：3件(対象者数7件)(12月末現在)
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 生活習慣病予防講座に参加した人に対しては、個々の健診結果に合わせて、食生活などの生活習慣の見直しに繋がる丁寧な保健指導を実施した。</p> <p>【課題】 生活習慣病予防や改善のために、各ライフステージの様々な機会を通して、生活習慣病予防の啓発を継続していく必要がある。</p>

事業No.及び事業名	11 身体活動や運動習慣の確立
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立を働き掛ける。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、運動習慣の確立を働き掛ける。				
目 標	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 28%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 28%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 29%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 29%	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。 30%
目標に対する実績 (見込み)	健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合 20～64歳 27.3% 65～74歳 38.4% 20～74歳 35.5%				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>市健康増進計画を踏まえ、事業を上越市運動普及推進協議会に委託し、広く市民に身体活動・運動習慣の定着につながるよう支援した。</p> <p><令和4年度> 委託事業(運動普及事業・体力測定事業)：130回 2,811人 自主活動：50回 618人</p> <p>・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人」の割合 20～64歳：27.3% (前年度比3.0ポイント増) 65～74歳：38.4% (前年度比5.9ポイント増)</p> <p>・健診問診項目(後期)「ウォーキング等の運動を週に1回以上している人」の割合 75歳以上：48.8% (1.1ポイント増)</p>
今後の課題・反省点	<p>【評価】 どの年代も継続的に運動を実施している人の割合が増加した。</p> <p>【課題】 20～64歳と65歳以上を比較すると、若い世代・働き盛り世代の「継続的な運動実施割合」が低く、身体活動・運動習慣の普及啓発を継続して実施する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	12-1 親子で参加・体験できるイベント等の実施
事業担当課	農政課
取組の概要	親子で参加できる食に関する体験活動を実施し、親と子が食への関心を高め、理解を深める機会を提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	食育フェアや食育実践セミナーにおいて、親子で参加できる食に関する体験の機会を設ける。				
目 標	親子で参加できる食に関する体験の場の提供 年2回以上				
目標に対する実績 (見込み)	親子で参加できる食に関する体験の場の提供 年2回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>6月開催の「もぐもぐジョッピーの食育フェア」及び10月開催の「食育実践セミナー」において、親子で参加できる食に関する体験の機会を設けた。</p> <p><もぐもぐジョッピーの食育フェア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みそまる」づくり体験 ・災害や減塩に役立つパックスッキングのデモンストレーション ・主食・主菜・副菜探しクイズ（会場内にある料理のイラストから主食・主菜・副菜を探すクイズ） <p><食育実践セミナー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の食料自給率チェック ・栄養成分クイズ ・食べ物の重さ当てクイズ（秤を使用せずに目測で重さが分かる）
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで大きなイベントを行うことができなかったが、体験を伴うイベントを開催することができた。 ・クイズなどは、子どもだけで考えることが難しいものもあるため、親子で体験してもらうことで、「食」に関する知識が共有され、家庭での実践につながる機会とすることができた。 <p>【課題】</p> <p>今回の体験では、「料理のデモンストレーションを見る」、「クイズで体験する」など、実際に作って食べるところまでは行うことができなかった。「食」に関する体験は、作ったり食べたりすることで、「食」への興味が湧くことから、社会情勢にあわせ、実施方法を検討していく必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	12-2 親子で参加・体験できるイベント等の実施
事業担当課	農村振興課
取組の概要	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催し、上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会を提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催する。				
目 標	上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供 年2回以上				
目標に対する実績 (見込み)	上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供 年2回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>「上越野菜」振興協議会主催で親子食農体験教室を開催した。「上越野菜」の丸えんびつなす、ひとくちまくわの収穫体験と料理体験を行った。</p> <p><開催日> 令和4年8月6日(土) 午前と午後に分けて、計2回開催</p> <p><参加者数> 午前：親子10組 20人 午後：親子 7組 17人</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 「上越野菜」の収穫と「上越野菜」を用いた料理体験をすることで、「上越野菜」の認知度向上と親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深めることができた。</p> <p>【課題】 より多くの親子から参加いただくため、開催日や収穫・調理する上越野菜、周知方法など、検討する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	13 食生活の改善に必要な情報提供
事業担当課	農政課
取組の概要	市民一人一人の日常生活の中で食育の実践が定着するよう、国が定めた「食生活指針」や「食育ガイド」により、具体的な取組例を示す。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、食に関連した集会等で配布し市民に啓発する。				
目 標	「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数 年3回以上				
目標に対する実績 (見込み)	「食育ガイド」を活用した食育推進啓発回数 年3回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に市内の保育園、幼稚園、小中学校に国が示す「食育ガイド」や新たに策定した第4次上越市食育推進計画の概要版、授業や食育活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。 ・6月開催の食育フェアにおいて、来場者が自由に持ち帰り、家庭で活用できるよう「食育ガイド」を配置した。 ・10月開催の食育実践セミナーにおいて、朝食の摂取の啓発の参考とした。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月の食育月間を中心とした啓発のみとなったため、啓発回数目標を達成することができなかった。 ・啓発内容としては、食育の指導に役立てていただくため、保育園、幼稚園、小中学校で紹介したことで、指導の参考にしていただけたものと考えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、6月の食育月間にのみ「食育ガイド」を活用した周知を行っている状況にある。多岐にわたる食育の内容を分かりやすく説明している資料であることから、年間を通じた活用方法を検討する必要がある。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	14 家庭での共食についての啓発
事業担当課	農政課
取組の概要	家族と一緒に食事をとることは、家族のコミュニケーションの場であるとともに、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発し、家庭での共食を推進する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページや食育イベント等において、家族と一緒に食事をとることの有効性を啓発し、家庭での共食を推進する。				
目 標	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 (食育市民アンケート結果) —	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 (食育市民アンケート結果) 週11回以上	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 (食育市民アンケート結果) —	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 (食育市民アンケート結果) 週11回以上	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 (食育市民アンケート結果) 週11回以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	市ホームページ「上越の食育」において、食事の作法やマナー、食文化を含む望ましい食習慣や知識が習得できるよう、家族揃って食卓を囲むなどの食を通じたコミュニケーションを大切にするよう啓発した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 現在の市ホームページでの周知は、年間を通じた固定ページでの周知であり、「家庭での共食」に特化した啓発ができていない現状がある。
	【課題】 「家庭での共食」に特化した啓発を行うタイミングが難しいと感じている。食事の作法やマナー、食習慣は、家庭での食事の場において学ぶことが多いことから、効果的な啓発方法の検討が必要である。

事業No.及び事業名	15 ★在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供
事業担当課	農政課
取組の概要	家族との共食の有効性や栄養バランスがとれた食事の実践方法、上越の食文化の紹介など、在宅時間に家庭で取り組むことができる食育情報を発信する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭においても手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページやSNSにより食育情報を提供する。 ・インターネットの利用環境にない市民に向け、紙媒体においても食育情報を提供する。 				
目 標	インターネット及び紙媒体による在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供回数 年3回以上				
目標に対する実績 (見込み)	<ul style="list-style-type: none"> ・クックパッドでのレシピ配信 月1回 ・食育実践セミナー(WEB版)の配信 1回 				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><郷土料理や旬の地場産食材を使用した料理のレシピの配信> 郷土料理や旬の地場産食材の啓発を図り、家庭での料理の一助とするため、料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。</p> <p><食育実践セミナー（WEB版）の配信> 家庭においても食について学べるよう、令和3年度及び4年度の食育実践セミナーの内容を市ホームページに掲載している。</p> <p><紙媒体による食育情報の発信> インターネット環境がない市民に向け、紙媒体による食育情報の発信は行うことができなかった。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回のクックパッドにおいて料理レシピの配信、食育実践セミナー（WEB版）の配信により目標を達成することができた。 ・紙媒体による食育情報の発信については、対象と内容を絞ることができず、実施することができなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅時間を有効に活用できる情報は、料理レシピの提供だけでなく、家庭での食育実践につながる内容を精査する必要がある。 ・紙媒体での食育情報の発信は、今年度対応できなかったことから、月に1度発行している「みんなの食育活動掲示板」の活動情報に加え、家庭で役立つ食育情報も掲載し改善する。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	16 保育園での食の体験活動
事業担当課	保育課
取組の概要	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
目 標	体験活動により、子どもたちの食に関する興味・関心を高める。 〔子どもの食への興味・関心の向上〕				
目標に対する実績 (見込み)	体験活動により、子どもの食への興味・関心が向上				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各園で畑やプランターでの野菜作りを行い、給食食材としての活用、クッキング活動、遊び（スタンプングや重量あてクイズ等）等を実施した。 ・各園で絵本を通じて園児の食への関心を深めるため高田図書館と協働し「おはなしランチ」を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>様々な体験活動を行うことにより、食への興味・関心を向上させることができた。</p>
	<p>【課題】</p> <p>食に関する興味、関心につなげるため、園児の月齢に合わせた体験活動を継続実施する必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	17 幼稚園・小中学校での食の体験活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
目 標	市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。 〔食に関する活動の実施〕				
目標に対する実績(見込み)	市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動 実施(見込み)				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園においては、育てたい野菜の苗の購入、畑の世話、収穫などの体験などの食に関する活動を実施した。 ・小中学校では、生活科や総合的な学習の時間において、野菜や米を育て、食べることや売ること、料理を作って食べるなどの体験等を伴う食に関する活動を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施できた。</p>
	<p>【課題】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、育てたものをその場で食べる活動がなかなか実現できなかったため、食べる体験活動については、育てた野菜や米を持ち帰った家庭と連携する必要がある。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	18 学校における食育活動の充実
事業担当課	学校教育課
取組の概要	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「給食だより」を毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。				
目 標	事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒を増やす。 〔食の正しい知識を持った児童生徒の増加〕				
目標に対する実績(見込み)	事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒増加(見込み)				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 発達段階に合わせた内容で計画的に食に関する指導を実施した。
	【課題】 計画的な指導を継続する。

事業No.及び事業名	19 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	学校・家庭・地域が連携し、児童生徒が自ら健全な食習慣を实践できるよう教育活動を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	全ての小中学校で家庭や地域と連携する取組を実施する。 (給食試食会や食に関する学校保健委員会など)				
目 標	児童・生徒が栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣について理解を深め実践する。 (児童・生徒が健全な食習慣の理解を深め実践する。)				
目標に対する実績(見込み)	児童・生徒が栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣についての理解を深め実践した(見込み)				
目標達成状況	概ね達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	給食試食会や食に関する学校保健委員会などを実施し、児童生徒の健全な食生活のために家庭や地域と連携する取組を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 給食の時間を中心に、学校・家庭・地域の連携をもとに望ましい食習慣の形成を目指す取組を実施できた。
	【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方々との活動を控えた学校もあったため、給食のおける地場産食材を通じた意識付けなど食習慣に関する地域との連携を児童生徒に啓発していく必要がある。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	20 小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	小中学校において充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。				
目 標	地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増やす。 〔特色をいかした食育を実践している学校の増加〕				
目標に対する実績(見込み)	調査中				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 実施結果について、現在調査中のため、確定版にて報告する。
	【課題】 実施結果について、現在調査中のため、確定版にて報告する。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	21 栄養バランスを意識した食生活の促進
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な事業で食品の基準量の普及・啓発を通じて、バランスのとれた食生活を推進する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	各ライフステージで行われる健康教育の中で、バランスのとれた食事をとることの重要性を啓発する。				
目 標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 全世代 60% 若い世代 45%	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 全世代 60% 若い世代 45%	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 全世代 60% 若い世代 45%
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳児検診、相談会)、学童期(小中学校血液事後、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事をとることの必要性について、健康教育を実施した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 すくすく赤ちゃんセミナー参加者の食事記録や乳幼児健診参加者等の若い世代から食生活の乱れが伺える。
	【課題】 今後も引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面でバランスのとれた食生活について健康教育の実施が必要である。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	22 日本型食生活の普及活動
事業担当課	農政課
取組の概要	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を推進するため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じてその普及を図る。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、日本型食生活のメリットや実践例を紹介し、市民の実践につなげる。				
目 標	日本型食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	日本型食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) 74.1%以上 (R3アンケート結果比較)	日本型食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) —	日本型食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) R5アンケート 結果以上の値	日本型食生活を実践している市民を増やす。 (食育市民アンケート結果) R7アンケート 結果以上の値
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<p>・10月29日(土)開催の食育実践セミナーにおいて、栄養バランスのとれた食事の摂取、日本型食生活のすすめ、お米を食べることのメリットなどの内容を盛り込んだ食育講演会を開催した。 演題：おいしく食べてみんな元気！ ～食事は楽しくバランスよく～ 講師：高橋 典子 氏(料理研究家/おから料理研究家)</p> <p>・当日の食育実践セミナーの講演会の内容を市ホームページに掲載し、広く市民に啓発している。</p> <p>・令和3年度に実施した食育実践セミナー(WEB版)の食育インタビューを市ホームページに継続的に掲載し、スポーツや勉強時において「お米」を食べることのメリットについて啓発している。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 食育実践セミナーの講演会では、栄養バランスが整いやすい日本型食生活の紹介や、栄養バランスのよい食習慣を無理なく続けられるコツ、お米の栄養価についてのお話をいただき、米どころ上越のお米の美味しさを再認識し、家庭での日本型食生活の実践につながる内容を提供することができた。</p> <p>【課題】 日本型食生活の言葉自体、認知度が低いことから、継続的に周知するとともに、家庭での実践に結び付けるため、日本型食生活の具体的な実践例を交えて周知する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	23 地域や職場での共食の有効性の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	孤食が多い人が様々な人たちと食事をする機会を増やすため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じて、地域での共食の有効性を紹介し、「新しい生活様式」に対応した地域での共食につなげる。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、地域での共食の有効性を紹介し、市民の実践につなげる。				
目 標	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合 (食育市民アンケート結果) —	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合 (食育市民アンケート結果) 55%以上	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合 (食育市民アンケート結果) —	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合 (食育市民アンケート結果) 68%以上	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合 (食育市民アンケート結果) 75%以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	新型コロナウイルス感染症拡大に考慮し、イベントや市の広報媒体において、積極的な啓発を行うことができなかった。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 まだまだ地域や職場において共食することが難しい状況にあり、啓発のタイミングが難しい。
	【課題】 孤食により、栄養バランスの偏りや食習慣の乱れなどが報告されていることから、孤食にならない共食のメリットを伝え、社会情勢を考慮し、今できる共食の方法を提案していく必要がある。

事業No.及び事業名	24 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施
事業担当課	社会教育課
取組の概要	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行い、料理教室や食をテーマとする体験講座を実施することで、郷土料理や食文化の関心を高め、普及・継承につなげる。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	公民館事業で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。				
目 標	郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 80%以上				
目標に対する実績(見込み)	郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合 80%以上				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>【実施済】</p> <p>安塚地区公民館 ・小中学生食育講座 1回</p> <p>柿崎地区公民館 黒川分館 ・きのこ学習会 1回</p> <p>三和地区公民館 ・さんわ楽活塾(発酵食品) 2回</p> <p>金谷地区公民館 ・伝統保存食づくり 2回 ・みんなの料理教室 3回</p> <p>吉川地区公民館 ・郷土料理教室 3回</p> <p>頸城地区公民館 明治分館 ・ふるさと体験講座(郷土料理・もちつき) 格1回</p> <p>郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 実施済講座のアンケート結果：<u>96.9%</u></p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>公民館講座における調理実習や会食を伴う体験活動は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し実施しているため活動内容に一定の制約が生じたが、多くの参加者から興味や関心を高めていただくことができ、郷土料理や食文化の普及に寄与できたものとする。</p> <p>【課題】</p> <p>感染症対策を徹底する上で会食を避けるため、調理した食品は参加者が持ち帰ることを基本としている。本来であれば、試食をし参加者同士が意見を交わすことで、より食への理解や興味・関心が深まるものと考えられることから、今後も引き続き感染症拡大状況を注視し安全・健康を第一としながら、最も効果的な内容・方法等を検討していきたい。</p>

事業No.及び事業名	25 謙信KIDSプロジェクト
事業担当課	社会教育課
取組の概要	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、各種活動を通じてその魅力を体験させることで、郷土への愛着の育成を図る。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	謙信KIDSプロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。				
目 標	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を90%以上とする。				
目標に対する実績(見込み)	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 97%				
目標達成状況	達成				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<p><「しよく」の講座(小学1~3年生対象、全3回)> 上越野菜について学ぶ 1回目: なす・ひとくちまくわの収穫体験、青果市場の見学 2回目: 枝豆の収穫と選別作業の体験 3回目: 収穫体験した上越野菜を使った調理実習</p> <p><「食」の講座(小学4~6年生対象、全3回)> 発酵について学ぶ 1回目: 発酵のしくみとみそづくりについて学び、みその仕込みを体験 2回目: 醤油について学び、醤油を使った料理体験 3回目: 1回目で仕込んだみそを使った調理実習</p> <p>講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果 97%</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 調理体験を楽しみにしていた参加者が多く、積極的に取り組んでおり、上越の食について実体験を通して楽しみながら学ぶことができた。また、保護者からのアンケート結果では、子供にとって良い経験ができたと答えた割合が100%と保護者からも高評価だった。</p> <p>【課題】 今後もコロナ禍での実施となることが想定されるため、対策を徹底し、参加者の安心・安全に配慮しながら、調理実習などの実体験を伴った講座に取り組んでいく必要がある。</p>

事業No.及び事業名	26 「発酵のまち上越」の啓発活動
事業担当課	上越ものづくり振興センター
取組の概要	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	上越の発酵食品をホームページやイベント等で広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。				
目 標	SNSでの情報発信により、上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる。 情報発信回数 ：月1回				
目標に対する実績(見込み)	SNSでの情報発信回数 月1回以上				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><情報発信> SNSで「発酵のまち上越」をPRした。</p> <p><講演・講座・学習会等> ・市内小学校と連携し、上越の発酵食品に関する校外学習を実施するとともに、子ども達から味噌の新しい食べ方を考案してもらい味噌の消費拡大を図った。 ・謙信KIDSプロジェクト「食」の講座において、小学生向けに味噌の仕込み体験や味噌、醤油を使った調理実習などを行い、次世代に発酵食品の魅力をPRした。 ・大潟地区公民館事業において、発酵のまち上越の取組についての学習会及び、全国の味噌の味比べを実施した。 ・上越教育大学と連携し、東京農業大学の小泉武夫先生を招き、発酵食をテーマとしたフォーラムを開催する。(2/23予定)</p> <p><イベント> ・6月の食育フェアにおいて、みそまる作り体験を実施することで、発酵食品文化の啓発に努めた。 ・越後・謙信SAKEまつりに合わせ、高田まちかど交流館にて上越産酒粕を使った「さかきん発酵鍋」と「雪むろ酒かすラーメン」を販売し発酵のまち上越の新名物としてPRした。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 ・SNSでの情報発信を月に1回以上行うことができた。 ・学習会などを通して、市民や次世代の子ども達に対し、上越の発酵食文化について興味関心を深めてもらうことができた。 ・SAKEまつりでは、市外からもお客さんに対しても発酵のまち上越ならではの新名物をPRすることができた。</p> <p>【課題】 ・感染対策の観点からその場での試食などまだまだ制限のある状況だが、引き続き感染対策を取りながらPRに努めていきたい。</p>

事業No.及び事業名	27 SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承
事業担当課	農政課
取組の概要	郷土料理になじみの薄い若い世代に向け、SNS等にレシピや由来を掲載し、郷土料理の継承につなげる。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	料理レシピ検索サイトに上越の郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピや由来を掲載する。				
目 標	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数 月1回				
目標に対する実績 (見込み)	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数 概ね月1回				
目標達成状況	達成				
目 標	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 (食育市民アンケート結果)	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 (食育市民アンケート結果)	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 (食育市民アンケート結果)	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 (食育市民アンケート結果)	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合 (食育市民アンケート結果)
	—	48%	—	49%	50%以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><料理レシピサイト「クックパッド」のレシピ投稿> NPO法人食の工房ネットワークと連携してサイトを運営し、郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピを投稿した。</p> <p><投稿したレシピ(12月現在)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新じゃがいもとアスパラガスのカレー炒め(4月) ・根曲がり竹の瓶詰(5月) ・ブロッコリーのチリ風炒め(6月) ・赤しそジュース(7月) ・麻婆風 夕顔のあんかけ(8月) ・新米をおいしく食べよう!けんさ焼き(10月) ・しっとり!米粉のお好み焼き(12月) ・大根と肉団子のみぞれかけ(12月) <p>※サイトフォロワー数:182件 ※R4.4月~12月の総アクセス数:82,332件 (月平均9,148件、日平均304件)</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人食の工房ネットワークと連携することで、旬の地場産食材の手軽なレシピを紹介することができている。 ・郷土料理については、特に年末年始にアクセス数が格段に増えることから、一定の需要があるものと感じている。 <p>【課題】</p> <p>当ページのアクセスランキングでは、郷土料理が上位を占めている。現在、一般的な上越の郷土料理レシピの投稿は、概ね掲載を終えていることから、一般的な上越の郷土料理のほか、各地域で伝わっている郷土料理などの掲載も検討していきたい。</p>

事業No.及び事業名	28 地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進
事業担当課	教育総務課
取組の概要	給食献立において、地場産食材、郷土料理を取り入れるなど、「上越の食」について考える取組を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	毎月、地場産食材や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。				
目 標	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数 月1回				
目標に対する実績 (見込み)	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数 月1回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>○今年度は、地場産食材や郷土料理を通じて、上越市の自然・食文化・産物についての理解を深めることを目的に、市立小中学校（69校）において、毎月「ふるさと献立」を実施した。</p> <p>○地場産食材を活用した「ふるさと献立」の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越ならではの魚を使用 「めぎすの粒マスタード焼き」「めぎすのつみれ汁」 「さめのごまケチャップソースかけ」「さめの竜田揚げ」 ・上越の特産物を使用 「車麩のみそ汁」「鶏肉と車麩の揚げ煮」 ・上越野菜を使用 「なますかぼちゃの炒め物」「ゆで枝豆」 「(越の丸)なすと豚肉の揚げ煮」 ・発酵食品を使用 「鮭の塩こうじ焼き」「塩こうじスープ」 「鶏肉の甘みそ焼き」「粕汁」 ・新潟の郷土料理 「春ののっぺい汁」「夏ののっぺい汁」「煮なます」 ・地域に伝わる保存食 「打ち豆入り豚汁」「豚肉の名立産梅ソースがけ」 「いもがらのみそ汁」
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供を月1回提供できた。 ・学校栄養教諭がふるさと献立の提供前までに、可能な範囲で生産者へ取材し、地場産食材に関する資料や動画を作成、給食指導に活用した中で、食べるまでに関わる工程や生産者の直接の声に、興味深く反応する児童生徒の様子もみられた。また、今年度初めて実施したゆで枝豆の提供時には、さやから出して食べるという食べ方が分からない児童もいて、食体験としても効果があった。 <p>【課題】</p> <p>引き続き、学校給食に提供可能な地場産食材や郷土料理を取り入れながら、「食」について考える取組を推進することが必要である。</p>

事業No.及び事業名	29 ★食育関係団体の食育活動の集約と情報発信
事業担当課	農政課
取組の概要	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約し、市ホームページ等で市民に広く周知する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約する体制を整備し、集約した食育情報は時宜を捉えて市民へ発信する。				
目 標	食育情報集約体制の整備集約した市内の食育情報の発信回数 月1回以上				
目標に対する実績 (見込み)	市内で行われる食育に関するイベント等の情報発信回数 月1回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの食育活動掲示板」として、市内で行われる食育情報を月ごとにまとめ、市ホームページに掲載している。 ・ホームページを閲覧できない市民もあることから、区総合事務所、南北出張所、公民館などに紙媒体で情報を発信している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からの新しい取組であり、毎月継続的に情報を発信することができている。 ・掲載内容は、行政で行う事業を多く掲載しており、市民が行う事業を掲載することができていない状況にある。 <p>【課題】</p> <p>当初は、いくつかの団体や機関の情報を発信していたが、最近では情報が固定化していることから、主催者側、利用者側それぞれに有効な取組となるよう、「みんなの食育活動掲示板」の周知を進めるとともに、情報収集を行う必要がある。</p>

事業No.及び事業名	30 健康づくり推進協議会の開催
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	医療機関等の関係機関と連携し、健康や医療の最新状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	健康づくり推進協議会を開催し、医療機関等の関係機関との協議から得た知見を、食育推進施策に活用する。				
目 標	健康づくり推進協議会の開催回数 年2回				
目標に対する実績 (見込み)	健康づくり推進協議会の開催回数 年2回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の乳幼児期・学童期～高齢期までの健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態や医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関等と情報を共有及び今後の活動の方向性について協議した。 平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を健康づくりの指針として、食育推進施策に活用している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 医療、教育、介護等の関係者と当市の健康課題から見えてきた今後の保健活動の方向性について情報共有することができた。</p> <p>【課題】 引き続き、医療機関や大学等関係機関等と市の健康実態や重症化・介護予防について情報提供するとともに、対応等の協議を行い、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるように検討していく必要がある。</p>

事業No.及び事業名	3 1 食育に関する積極的な情報提供
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	市ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内の食育活動やイベント、食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、広報上越、メディア等を通じて、市民へ食育情報を定期的に発信する。				
目 標	食育情報の発信回数 月4回以上				
目標に対する実績 (見込み)	食育情報の発信回数 月4回以上				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記> 上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに掲載している。</p> <p><小中学校給食献立表> 教育総務課と連携し、市ホームページに毎月掲載している。</p> <p><郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ> 料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。</p> <p><市内の食育イベント等の情報> 「みんなの食育活動掲示板」として、市内で行われる食育情報を月ごとにまとめ、市ホームページに掲載しているほか、総合事務所、南・北出張所、公民館等において、紙媒体で情報を発信している。</p> <p>その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや今年度よりスタートした農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業についての情報を発信している。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に月4回以上の食育情報を発信することができた。 情報を発信する媒体は、市ホームページを中心としているが、今年度から農林水産部のインスタグラムを開設したことから、今後も様々な媒体を活用して情報発信していく。 <p>【課題】</p> <p>定期的に食育情報を発信しているが、情報が市民に確実に届くよう、市ホームページやインスタグラム自体の周知が必要である。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	32 学校給食だよりの発行による情報提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	毎月、学校給食だよりを発行し、給食献立や旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	学校給食だよりを作成し、保護者へ提供する。				
目 標	給食だよりの発行回数 月1回				
目標に対する実績 (見込み)	給食だよりの発行回数 月1回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒やその保護者に対し、毎月の給食だより等を通じて、給食に関する情報（レシピや旬の食材、地域の伝統的な献立等）を継続的に提供した。 ・市ホームページにおいて、給食だよりを掲載した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>児童生徒やその保護者、並びに広く市民に学校給食について情報提供を行うことができた。</p>
	<p>【課題】</p> <p>今後も継続して給食だより等を通じて「学校給食情報」を発信し、「食」への関心や知識を高める必要がある。</p>

事業No.及び事業名	33 「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」を中心に、市民向けのイベントを開催するほか、市ホームページや広報上越等を通じた食育の実践の定着につながる情報を発信する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 6月の食育月間に「食育フェア」を開催するとともに、食育の実践につながる食育情報を保育園、学校等に配布し啓発する。 毎月19日の食育の日に「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」を市ホームページ、SNSに掲載する。 市ホームページや広報上越を通じて、定期的に食育情報を発信する。 				
目 標	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上(食育市民アンケート結果)	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上(食育市民アンケート結果) 24.3%以上(R3アンケート結果比較)	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上(食育市民アンケート結果)	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上(食育市民アンケート結果) R5アンケート結果以上の値	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上(食育市民アンケート結果) R7アンケート結果以上の値
目標に対する実績(見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><6月の食育月間における啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> 「もぐもぐジョッピーの食育フェア」の開催(6月18日(土)、無印良品直江津) 自分の食生活を考え、食育の実践の環を広げる場を提供 <内容>・「みそまる」づくり体験 <ul style="list-style-type: none"> 災害や減塩に役立つパッククッキングデモンストレーション 食べ物マジックショー けしごむはんこ教室 その他、減塩や朝食の摂取についての啓発や保育園の給食等のパネル展示 <p>・市内の保育園、幼稚園、小中学校へ新たに策定した第4次上越市食育推進計画の概要版や国が発行している「食育ガイド」を配布したほか、授業や活動で使用できるデジタルコンテンツを紹介した。</p> <p><毎月19日の食育の日></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食において、19日を目安に「食育の日献立」や「ふるさと献立」を提供し、食を考える機会とした。 公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食について学ぶ機会とした。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もぐもぐジョッピーの食育フェア」では、来場のきっかけとして、マジックショーやけしごむはんこ体験を取り入れたことで、多くの方から来場いただき、食育啓発の展示も合わせて見てもらうことができた。 <p>・保育園での食育集会や学校給食の取組は、定着し継続的に実施している。</p> <p>【課題】</p> <p>引き続き、6月の食育月間、毎月19日の食育の日を中心に、保育園、幼稚園、学校、地域へ食育情報を発信し、全市民運動として食育の推進に取り組むとともに、6月の食育月間は特に力を入れて食育推進に向けた啓発を行う必要がある。</p>

事業No.及び事業名	34 食育実践セミナーの開催
事業担当課	農政課、関係課
取組の概要	食に関する講演会や食体験を通じて、市民の食への関心を高めるとともに、家族や自らの食生活を考え、食育の実践の定着につながる機会とする「食育実践セミナー」を開催する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市内の食育関係団体や庁内食育推進関係課と連携して、食育実践セミナーを開催する。				
目 標	食育実践セミナーの開催回数 年1回				
目標に対する実績 (見込み)	食育実践セミナーの開催回数 年1回(10月29日)				
目標達成状況	達成				
目 標	食育に関心を持っている市民の割合。 —	食育に関心を持っている市民の割合。 82.5%	食育に関心を持っている市民の割合。 —	食育に関心を持っている市民の割合。 87.5%	食育に関心を持っている市民の割合。 90%以上
実 績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>市民全世代が食への関心を高め、自分や家族の食生活を考える食育の実践の環を広げる機会となる場を提供するため、関係機関と連携し、食育実践セミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：10月29日(土)※農林水産フェスティバルと同時開催 ・会 場：上越文化会館 ・内 容： <ul style="list-style-type: none"> ①食育講演会「おいしく食べてみんな元気！ ～食事は楽しく、バランスよく～」 講師：高橋典子 氏(料理研究家/おから料理研究家) ②食育啓発の展示 朝食を食べることの啓発 市立保育園の給食についての展示 栄養成分表示クイズ 我が家の食料自給率チェック 上越の食(発酵のまち上越、上越野菜)の紹介 ・連携機関：JAえちご上越、上越地域振興局健康福祉環境部、食生活改善推進員、新潟県栄養士会上越支部 <p>その他、食育実践セミナーの内容を「食育実践セミナー(WEB版)」として、市ホームページで広く公開した。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産フェスティバルと同時開催となり、イベント全体の来場者数は約1,000人であったが、午後からの食育講演会への来場者が少なく、周知に課題を残す結果となった。 ・イベント全体としては、食育実践セミナーの内容のほか、農業機械の展示や上越市の農林水産業についての展示を行い、生産についても理解を深めてもらう機会となった。 <p>【課題】</p> <p>食育講演会は、子育て世代にも聞いてもらえるよう、テーマを絞ったが、来場者が少ない状況にあった。講演会の形式にとられず、楽しみながら食について考え、学べる内容の検討が必要である。</p>

事業No.及び事業名	35 ★デジタル技術を活用した食育情報の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	市民がいつでも手軽に食育情報が入手できるように、市ホームページやSNSを活用して食育情報を発信する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページ及びSNSから食育情報を随時発信する。				
目 標	市ホームページ及びSNSに食育情報(食育関係情報全て)を発信する回数 月3回以上				
目標に対する実績(見込み)	市ホームページ及びSNSに食育情報(食育関係情報全て)を発信する回数 月4回以上				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 <もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記> 上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに掲載している。</p> <p><小中学校給食献立表> 教育総務課と連携し、市ホームページに毎月掲載している。</p> <p><郷土料理や旬の地域食材を使用した料理のレシピ> 料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに月に1回のペースで掲載している。</p> <p><市内の食育イベント等の情報> 「みんなの食育活動掲示板」として、市内で行われる食育情報を月ごとにまとめ、市ホームページに掲載しているほか、総合事務所、南・北出張所、公民館等において、紙媒体で情報を発信している。</p> <p>その他、市ホームページ内の「上越の食育」ページや今年度よりスタートした農林水産部のインスタグラムを活用し、食や農林水産業についての情報を発信している。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 ・定期的に月4回以上の食育情報を発信することができた。</p> <p>・情報を発信する媒体は、市ホームページを中心としているが、今年度から農林水産部のインスタグラムを開設したことから、今後も様々な媒体を活用して情報発信していく。</p> <p>【課題】 ※31 食育に関する積極的な情報提供の再掲 定期的に食育情報を発信しているが、情報が市民に確実に届くよう、市ホームページやインスタグラム自体の周知が必要である。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	36 食の安全に関する情報発信
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	国、県からの食の安全に関する健康被害情報を市ホームページや広報紙を活用して情報提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	県からの食の安全に関する健康被害情報等を市ホームページや広報紙などを活用し、情報提供する。				
目 標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 77% 若い世代 66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 85% 若い世代 69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 90% 若い世代 70%
目標に対する実績(見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	市ホームページに食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 市ホームページに食中毒予防等「食の安全」に関する情報を掲載することで、市民に情報発信することができた。
	【課題】 今後も継続して「食の安全」に関する情報を市民に発信していく。

事業No.及び事業名	37 農林水産物等の放射性物質検査等の情報発信
事業担当課	農村振興課、農林水産整備課
取組の概要	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などを市民に情報提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	必要に応じ、県からの農林水産物等の放射性物質の検査結果を市ホームページで周知する。				
目 標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 77% 若い世代 66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 85% 若い世代 69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 90% 若い世代 70%
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><農村振興課、農林水産整備課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行った。 ・令和4年度1月時点で市内の検査で異常は確認されなかった。 ・今後、異常が確認された場合は、都度、市ホームページにて市民への周知を行う。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p><農村振興課、農林水産整備課></p> <p>市内での検査の時期や結果を適宜確認し、周知漏れがないよう努めた。</p> <p>【課題】</p> <p><農村振興課、農林水産整備課></p> <p>基準値以上の放射性物質が検出された場合には、市ホームページなどで市民に広く情報提供を行い、市民の不安解消に努める。</p>

事業No.及び事業名	38 食品表示に関する普及啓発
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市民一人一人が安全で安心な食生活を送ることができるよう、食品表示に関する知識の普及を図る。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	県からの食品表示の情報について市ホームページや食育実践セミナーなどのイベントにおいて、情報提供する。				
目 標	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 77% 若い世代 66%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 85% 若い世代 69%	【36、37、38共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (食育市民アンケート結果) 全世代 90% 若い世代 70%
目標に対する実績(見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>・上越市ホームページ「上越の食育」内の食の安全・安心情報ページで、食品表示に関する情報などが掲載された「にいがた食の安全インフォメーション」の外部リンクを表示し、市民への周知を行った。</p> <p>・食育実践セミナーにおいて、上越地域振興局健康福祉環境部の協力を得て、食品表示に関するパネルや食品サンプルを展示し、市民の意識啓発を行った。</p> <p>開催日：令和4年10月29日（土） ※上越市農林水産フェスティバルと同時開催 会 場：上越文化会館</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 農業者や子育て世代が多く参加した食育実践セミナーで展示することで、広く市民に意識啓発を行うことができた。</p> <p>【課題】 引き続き、食品表示に関する啓発を行い、食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断できる市民の増加に努める。</p>

事業No.及び事業名	39 地場産物(青果物)を使用した給食の提供
事業担当課	教育総務課、農政課
取組の概要	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産物(青果物)の利用促進を図る。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	関係団体等との連携を強化し、地場産物(青果物)の利用を促進する。				
目 標	学校給食の地場産物(青果物)の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 16%以上	学校給食の地場産物(青果物)の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 17%以上	学校給食の地場産物(青果物)の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 18%以上	学校給食の地場産物(青果物)の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 19%以上	学校給食の地場産物(青果物)の使用量の拡大 地場産物(青果物)の使用率 20%以上
目標に対する実績(見込み)	地場産物(青果物)の使用率 14.45%(2学期末)				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体や生産者等との連携により確立してきた地場産野菜の納入体制を基に、年間を通じて情報を共有しながら、給食に地場産野菜を取り入れるよう努めた。 全体の野菜使用量に対する地場産野菜使用率 14.45% (2学期末) 地場産野菜の学校給食への利用拡大に向け、関係機関、団体と課題の整理や今後の対応の検討を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食での青果物の必要量や地場産野菜の収穫時期について、関係団体等と共有し、献立に反映することができた。 地元商店の廃業等により、給食用の地場産野菜の確保が困難となった地区においても、JAや近隣地区の商店等の協力を得て、地場産野菜の使用につなげることができた。 天候の影響で長ねぎ、人参、大根、キャベツが生育不良や生育遅れとなり給食に使用できなかったため、地場産野菜の使用率が低下した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元商店の廃業や生産者の減少等により、今後、地場産野菜の仕入れが難しくなることが想定されることから、必要量を確保し、安定した納入体制を維持するため、関係団体等との更なる連携強化を図る必要がある。 青果物は天候による影響を受けやすいため、地場産野菜の使用率に毎年変動が見られる。 園芸品目の作付けは、少量多品目の生産者が多く、年間を通じて学校給食に利用できる野菜の種類、数量が確保できていない。 学校給食の使用量に対して、生産量が少ない品目(馬鈴薯、人参、玉ねぎ)の生産拡大を図る必要がある。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	40 ★上越産農産物等の情報発信
事業担当課	農村振興課
取組の概要	「上越野菜」を始めとした、上越産農産物等のPR、販売促進及び農産物直売所への誘客を図るため、上越産農産物等に関する情報を発信する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関する情報発信を行う。				
目 標	facebookでの情報発信の回数 年24回				
目標に対する実績 (見込み)	facebookでの情報発信の回数 年27回				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上越産農産物等に関する情報を始め、販売促進に関する補助事業、農場見学ツアーや直売所を知るツアー、直売所のイベント情報などfacebookや市ホームページ、マスコミのほか、今年度新たにInstagramを活用し、情報発信を行った。 ・「上越野菜」を学校給食の食材として使用するとともに、「上越野菜」の生産者に関する情報を給食だより等で児童及び保護者に発信した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <p>facebookやInstagramを活用することで、上越産農産物等の情報を全国に即時発信することができた。</p>
	<p>【課題】</p> <p>イベントの開催案内や開催結果のほか、「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関し、より多くの人から閲覧してもらえるように、掲載内容を工夫する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	4 1 地産地消推進の店認定事業
事業担当課	農政課
取組の概要	小売店や飲食店等に地域食材を積極的に活用するよう働き掛けるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認定を行う。 さらに「プレミアム認定店」を認定し、認定店から地産地消の情報発信を行うことで、地産地消の推進を図る。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	認定事業を周知し、地域食材を積極的に取り扱う市内の小売店、飲食店等を地産地消推進の店に認定する。				
目 標	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。 ・地産地消推進の店認定数：172軒 ・プレミアム認定店：18軒以上	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。 ・地産地消推進の店認定数：174軒 ・プレミアム認定店：20軒以上	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。 ・地産地消推進の店認定数：176軒 ・プレミアム認定店：22軒以上	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。 ・地産地消推進の店認定数：178軒 ・プレミアム認定店：24軒以上	認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。 ・地産地消推進の店認定数：180軒 ・プレミアム認定店：26軒以上
目標に対する実績(見込み)	・地産地消推進の店認定数：167軒 ・プレミアム認定店：16軒				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

	令和4年度
主な事業実績	<p>・認定店の募集、認定により、認定店数は令和4年12月現在で167軒となり、目標を達成することができていない。3月に開催する地産地消推進会議において、申請のあった店舗の認定審査を行い、認定店数の増加を図る。</p> <p>・地産地消の推進と地産地消推進の店の利用促進を目的に「地産地消推進キャンペーン」を10月15日(土)から11月30日(水)まで1か月半実施した。 (参加店舗数：38店舗 キャンペーン応募件数：2,791件)</p> <p>・認定店のうち、地産地消の取組が一定基準以上あり、上越産品のおいしさや魅力を発信し、市民や観光客が上越産品に興味を持つ機会とする「プレミアム認定店」について、市民に周知し利用促進を図った。</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム認定店の認定制度は、地産地消推進会議において、慎重審議を行ったことで、新たな基準で地産地消を盛り上げる事業をスタートさせることができた。 ・地産地消推進キャンペーンでは、昨年度より応募件数が約1,000件増え、参加店舗のご協力のもと、多くの市民や観光客からキャンペーンに参加していただくことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の経営方針の転換等により、認定店を辞退する店舗があるため、引き続き、地場産食材を取り扱っている店舗に働き掛け、認定店数を増やすことで、地産地消の推進、郷土料理の普及に努める。 ・プレミアム認定店制度は、市民への周知がまだまだ弱いいため、農林水産部のInstagramや市ホームページ等で継続的な周知を行い、新制度の認知度向上を図る必要がある。

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	4 2 農産物直売所と消費者のつながり強化
事業担当課	農村振興課
取組の概要	消費者に上越の食と農の魅力を知ってもらい、積極的に選んでもらえるよう、直売所と消費者がつながる機会を提供する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	消費者と直売所が つながる機会を提供する 直売所を知るツ アー等を開催する。	消費者と直売所が つながる機会を提供する イベントを開催する。			
目 標	事業の参加者数 10人	事業の参加者数 50人			
目標に対する 実績 (見込み)	事業の参加者数 33人				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象とした「直売所を知るツアー」を開催し、市内3つの直売所のほか、直売所で販売している生産者の農場をめぐり、上越の食と農の魅力発信に努めた。 開催日：令和4年7月24日（日） 参加者数：7人（募集人数10人） ・7月23日（土）～9月30日（金）に「直売所祭り」と題して、市内直売所6店舗をめぐるスタンプラリーを開催した。 応募者数：26人 ・地元新聞に直売所のイベント等の情報掲載を依頼し、市民への周知を行った（年3回）ほか、市ホームページ、SNSで情報発信を行った。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 イベント開催や情報発信することで、市内直売所の利用促進と食と農の魅力を発信することができた。</p> <p>【課題】 R3年度の反省を踏まえ、R4年度のツアーを日曜日に開催したが、参加者数はR3年度と同数であったことから、直売所の利用促進に向け、より効果的な事業を検討する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	4 3 農林漁業体験活動等の情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をとりまとめ、情報提供を行う。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページや広報上越等による情報提供を行う。				
目 標	市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする。 情報の提供と更新				
目標に対する実績(見込み)	上越市ホームページと広報上越にて、情報の提供を行った。				
目標達成状況	達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市ホームページ「上越の食育」内の食育体験メニュー・指導者紹介ページで、グリーン・ツーリズムやNPO法人等による体験活動などの情報が掲載された外部リンクを表示し、市民への情報提供を行った。 ・また、市内のNPO法人等が実施する農林漁業体験イベントの情報を広報上越を通じて提供した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市ホームページに農林漁業体験に関する外部リンクを表示することにより、市民が常時情報を把握できる環境を提供した。 ・農業体験イベントを広報上越に掲載することにより、多くの市民に情報発信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市ホームページに掲載する情報を適宜更新していく必要がある。 ・市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をより広く把握し、情報提供する必要がある。

事業No.及び事業名	4 4 都市・農村交流促進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	農作業体験やオンライン等による都市との交流事業を実施する。	→			
目 標	都市との交流体験者数 330人	都市との交流体験者数 330人	都市との交流体験者数 350人	都市との交流体験者数 350人	都市との交流体験者数 350人
目標に対する実績 (見込み)	都市との交流体験者数 95人				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p>・都市生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れての交流体験（稲刈り体験、大根掘り・梅の剪定体験、酒仕込み体験）を3回、東京に向き棚田米の学習会を1回、オンライン交流会を3回開催し、パルシステム東京と取引のある商品のPRと販売促進を図るとともに当市の食と農に対する理解や関心を深めることができた。 交流人数：81人（生協パルシステム東京組合員）</p> <p>・大島区の市民農園を契約している首都圏居住者：14人</p>
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 交流体験事業やオンライン交流会を通して、組合員から産地の想いやこだわりをもった当市の農産物への理解を深めてもらうことで、当市のファンの獲得、上越産品の購入意欲の向上に繋がった。</p> <p>【課題】 全国的なオンラインでの産地交流会の定着や約3年ぶりに当市での交流体験事業を開催したが、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響があり、参加者数が伸びなかった。子供から大人まで参加してみたいと思えるような魅力ある企画を検討する必要がある。</p>

事業No.及び事業名	45 環境保全型農業の推進
事業担当課	農政課
取組の概要	今後ニーズが見込まれる有機農産物に対応するため、有機農業に取り組んでいる農業者を講師に、有機農業の実情を学ぶ研修会を開催し、有機農業に取り組む農業者の裾野を拡大する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	食の安全や自然環境の保全につながる有機農産物の生産を推進するため、農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金を活用し支援する。				
目 標	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 80ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 85ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大 環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 90ha
目標に対する実績 (見込み)	環境保全型農業に取り組んでいる面積 1,513ha うち、有機農業に取り組んでいる面積 62ha				
目標達成状況	未達成				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<p><環境保全型農業のうち、R4年度環境保全型農業直接支払交付金の取組></p> <p>(6月計画時の見込数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組面積：838ha ・交付金額：44,837,180円 ・取組内容：堆肥の施用 カバークロップ 長期中干し 秋耕 有機農業 冬期湛水管理
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 環境保全型農業を行っている農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金で支援を行ったが、目標の達成には至らなかった。</p> <p>【課題】 R3年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」では、化学肥料・化学合成農薬の低減や有機農業の拡大が掲げられており、今後、有機農業をはじめとする環境保全型農業の更なる推進を図る必要があるが、一方で農業者が高齢化しており、農業経営が困難になることが考えられる。</p>

令和4年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	4 6 ★環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起
事業担当課	農政課
取組の概要	持続可能な農林水産物の発展につなげるため、市民に対し化学合成農薬や化学肥料の使用を抑えた環境と調和した生産方法による農林水産物や食品を消費することの意義を伝え、市民の消費につなげる。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	環境と調和した生産方法による農林水産物の消費を推進するため、市民に対し、それらを消費することの意義を発信する。				
目 標	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 (食育市民アンケート結果) 65%	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 (食育市民アンケート結果) 72%	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合 (食育市民アンケート結果) 75%以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<にいがたオーガニックフェスタにおける有機農業の紹介> 11月6日(日)開催の「にいがたオーガニックフェスタ」(にいがたオーガニックフェスタ実行委員会主催)に共催し、市民に対し有機農業を紹介することで、環境と調和した農産物への理解を促進した。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	【評価】 有機農業に関心のある農業者・料理人・消費者・流通業者が主催するイベントに参加し、上越市の有機農業を発信することができた。 【課題】 有機農産物に対しては、近年消費者の関心も高いことから、市民団体とも連携し、環境と調和のとれた生産方法で作られた農産物への理解を促進し、消費へつなげる方法を検討する必要がある。

事業No.及び事業名	47 食品ロス削減に向けた取組の推進
事業担当課	農政課
取組の概要	食品ロスの削減は、資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながることから、家庭や外食時における食品ロス削減に向けた取組を啓発する。

★年度別計画

年 度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業計画	市ホームページやSNS、イベントにおいて食品ロスの現状や削減に向けた方策を周知する。				
目 標	宴会時の食べきり運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう20・10運動」を始めとした食品ロス削減に向けた取組の啓発回数 年3回以上				
目標に対する実績 (見込み)	・年3回 ・その他、市ホームページで継続的に啓発				
目標達成状況	達成				
目 標	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 (食育市民アンケート結果) 92%以上	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 (食育市民アンケート結果) —	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 (食育市民アンケート結果) 92%以上	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合 (食育市民アンケート結果) 92%以上
目標に対する実績 (見込み)	食育市民アンケートを実施しないため、目標に対する測定不可				
目標達成状況	—				

★取組状況

令和4年度	
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の「食品ロス削減月間」において、生活環境課と連携し、「広報上越」、上越タイムス「上越市民の窓」及び市ホームページで食品ロスの現状と削減に向けた対策について啓発した。 ・10月22・23日開催の「越後・謙信SAKEまつり2022」において、生活環境課、環境保全課と連携して、食品ロス削減の啓発チラシ入りのポケットティッシュを配布した。 ・コロナ禍においても、宴会時の食べ切りを呼びかけるため、「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう 20・10運動」を市ホームページで紹介している。
目標達成状況を踏まえた評価・課題	<p>【評価】 10月の「食品ロス削減月間」を中心に期間を絞って周知することができた。</p> <p>【課題】 啓発を行うことに満足せず、家庭での実践につながる具体的な実践方法等の継続的な啓発が必要である。</p>

令和4年度 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理一覧表【R4年12月末現在】

基本方針	No.	事業名	目標	R4目標達成状況	担当課
生涯にわたる食を通じた心身の健康づくりの推進	1	妊産期の食育推進	低出生体重児の割合の減少	達成	健康づくり推進課
	2-1	乳幼児期の食育推進	肥満、やせの子どもの減少	達成	健康づくり推進課
	2-2			—	保育課
	2-3			概ね達成	学校教育課
	3-1	学童期・思春期の食育推進	保健指導により食の正しい知識を持つ児童・生徒の増加	概ね達成	健康づくり推進課、学校教育課
	3-2			未達成	農政課
	4	青年期・壮年期の保健指導事業	特定保健指導実施率の増加	—	健康づくり推進課
	5	高齢期の保健指導事業	適正体重の高齢者(65歳以上)の増加	概ね達成	健康づくり推進課
	6-1	健全な食習慣の推進	朝食を欠食する市民の減少	未達成	健康づくり推進課
	6-2			未達成	保育課
	6-3			未達成	学校教育課
	7-1	歯科保健事業の推進	虫歯のない児童・生徒の割合の増加	概ね達成	健康づくり推進課
	7-2		ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加	—	
			7-3	虫歯のない児童・生徒の割合の増加	概ね達成
			ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加	—	
	8	メタボリックシンドロームの予防・改善	メタボリックシンドローム該当者、予備群の割合の減少	概ね達成	健康づくり推進課
	9	適正体重維持の推進	適正体重を維持している市民の増加	未達成	健康づくり推進課
	10	生活習慣病の予防	適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の増加	—	健康づくり推進課
	11	身体活動や運動習慣の確立	30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合の増加	達成	健康づくり推進課
	12-1	親子で参加・体験できるイベント等の実施	親子で参加できる食に関する体験の場の提供	達成	農政課
	12-2		上越野菜のPRや親子のコミュニケーション等の機会の提供	達成	農村振興課
	13	食生活の改善に必要な情報提供	「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数	達成	農政課
	14	家庭での共食についての啓発	朝食又は夕食を家族と食べる「共食」の回数	—	農政課
15	在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供	インターネットや紙媒体による在宅時間を活用できる食育情報の提供回数	達成	農政課	
16	保育園での食の体験活動	体験活動により子どもたちの食に関する興味・関心を高める	達成	保育課	
17	幼稚園・小中学校での食の体験活動	市立幼稚園、小中学校での食に関する体験活動の実施	達成	学校教育課	
18	学校における食育活動の充実	事業実施により正しい食の知識を持った児童生徒の増加	達成	学校教育課	
19	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	児童・生徒がバランスのよい食事や健全な食習慣への理解を深め実践する	概ね達成	学校教育課	
20	小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	地域や学校の伝統・文化をいかした食育を実践する学校の増加	—	学校教育課	
21	栄養バランスを意識した食生活の推進	主食・主菜・副菜が揃った食事を1日2回以上ほぼ毎日実践する市民の増加	—	健康づくり推進課	
22	日本型食生活の普及活動	日本型食生活を実践する市民の増加	—	農政課	
23	地域や職場での共食の有効性の発信	地域等で共食したいと思う市民が共食する割合	—	農政課	
地域や家庭で食文化の受け継承	24	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	郷土料理や食文化の理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合	達成	社会教育課
	25	謙信KIDSプロジェクト	上越の食について興味・関心を深めた参加者の割合	達成	社会教育課
	26	「発酵のまち上越」の啓発活動	SNSにより上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民の増加	達成	上越ものづくり振興センター
	27	SNS等を活用した若い世代への郷土料理の継承	郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数	達成	農政課
28	地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	地場産食材や郷土料理を取り入れた給食の提供回数	—	教育総務課	
食育環境づくりに向けた連携促進と情報共有	29	食育関係団体の食育活動の集約と情報発信	食育情報集約体制の整備と集約した情報の発信回数	達成	農政課
	30	健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進協議会の開催回数	達成	健康づくり推進課
	31	食育に関する積極的な情報提供	食育情報の発信回数	達成	農政課、関係課
	32	学校給食だよりの発行による情報提供	給食だよりの発行回数	達成	教育総務課
	33	「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	「食育月間」及び「食育の日」の認知度の増加	—	農政課、関係課
	34	食育実践セミナーの開催	食育実践セミナーの開催回数	達成	農政課、関係課
			食育に関心を持っている市民の割合	—	
	35	デジタル技術を活用した食育情報の発信	市HP・SNSに食育情報を発信する回数	達成	農政課
	36	食の安全に関する情報発信	—	—	健康づくり推進課
	37	農林水産物等の放射性物質等の情報発信	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	—	農村振興課、農林水産整備課
38	食品表示に関する普及啓発	—	—	農村振興課	
上越の農林漁業への理解の促進	39	地場産物(青果物)を使用した給食の提供	学校給食の地場産物(青果物)使用量の拡大	未達成	教育総務課、農政課
	40	上越産農産物等の情報発信	facebookでの情報発信の回数	達成	農村振興課
	41	地産地消推進の店認定事業	認定事業を周知し地産地消推進の店の増加	未達成	農政課
	42	農産物直売所と消費者のつながり強化	事業の参加者数	達成	農村振興課
	43	農林漁業体験活動等の情報提供	市民が容易に農林漁業体験情報を入手できるようにする	達成	農村振興課
	44	都市・農村交流促進	都市との交流体験者数	未達成	農村振興課
	45	環境保全型農業の推進	環境保全型農業に取り組み面積の維持、有機農業に取り組み面積の拡大	未達成	農政課
	46	環境と調和のとれた農林水産物や食品の消費喚起	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	—	農政課
	47	食品ロス削減に向けた取組の推進	「20・10運動」等の食品ロス削減に向けた取組の啓発回数	達成	農政課
食品ロス削減のために行動している市民の割合			—		

総括表

目標達成状況	目標数
達成	26
概ね達成	7
未達成	9
—(評価困難)	19

令和5年2月16日
上越市食育推進会議
資料 NO. 4

(案)

上越市食育推進実施計画

(アクションプラン)

(令和4年度～令和8年度)

令和5年度
上越市

目 次

第1章 上越市食育推進実施計画（アクションプラン）の策定について

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 食育推進実施計画（アクションプラン）の目的 | 1 |
| 2 アクションプランに掲げる事業の進捗管理 | 1 |
| 3 アクションプランの推進に対する関係者の役割 | 2 |

第2章 食育の推進に関する具体的な事業

- | | |
|---------------------------------------|----|
| 1 基本方針1に基づく事業（指標項目） | 4 |
| (1) 一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立 | 5 |
| (2) 「家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用」に向けた取組 | 11 |
| (I) 家庭における食育の推進 | 11 |
| (II) 学校、保育園等における食育の充実 | 13 |
| (III) 地域における食生活改善に向けた取組の推進 | 15 |
| 2 基本方針2に基づく事業（指標項目） | 17 |
| (1) 郷土の優れた食文化の継承 | 19 |
| 3 基本方針3に基づく事業（指標項目） | 21 |
| (1) 食育推進に向けた連携促進 | 21 |
| (2) 食育情報の発信と共有 | 23 |
| (3) 食の安全性の確保 | 25 |
| 4 基本方針4に基づく事業（指標項目） | 27 |
| (1) 地域内での自給を基本とした地産地消の推進 | 27 |
| (2) 生産者と消費者の信頼関係の確立 | 29 |
| (3) 環境と調和のとれた持続可能な農林漁業の発展 | 31 |

第1章 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)の策定について

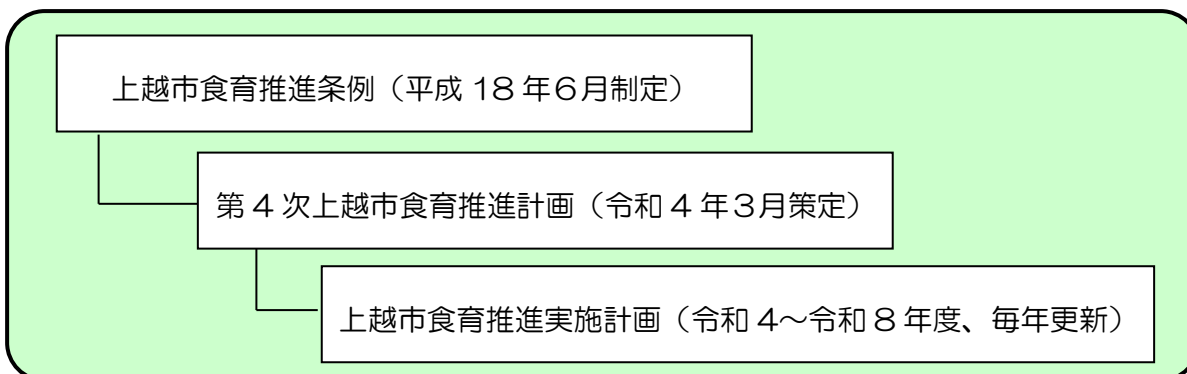
1 食育推進実施計画(アクションプラン)の目的

上越市では、平成 18 年 6 月に上越市食育推進条例（以下「条例」という。）を制定し、この条例の基本理念を実現するため、上越市食育推進計画（平成 19 年 11 月策定、平成 24 年 4 月、平成 29 年 3 月改定）（以下「推進計画」という。）を策定して各種施策を推進することとしています。

この推進計画に基づいてより具体的な事業を規定し、施策の実効性を高めるため、上越市食育推進実施計画（アクションプラン）（以下「アクションプラン」という。）を策定し食育を推進しています。

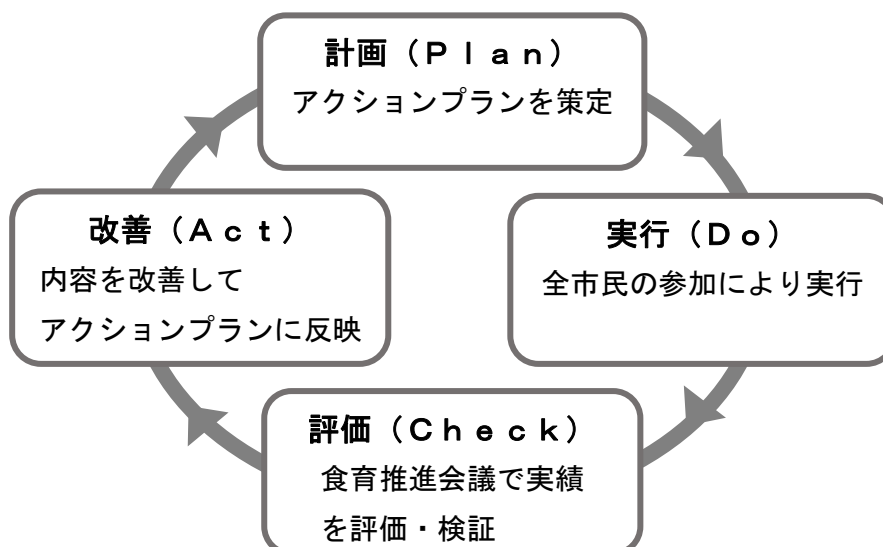
アクションプランでは、今後 5 年間に上越市が重点的に行う取組を明確にし、アクションプランの具体的な実施に当たっては、市だけでなく関係団体が連携、協力しながら取り組んでいきます。

○アクションプランの位置づけ



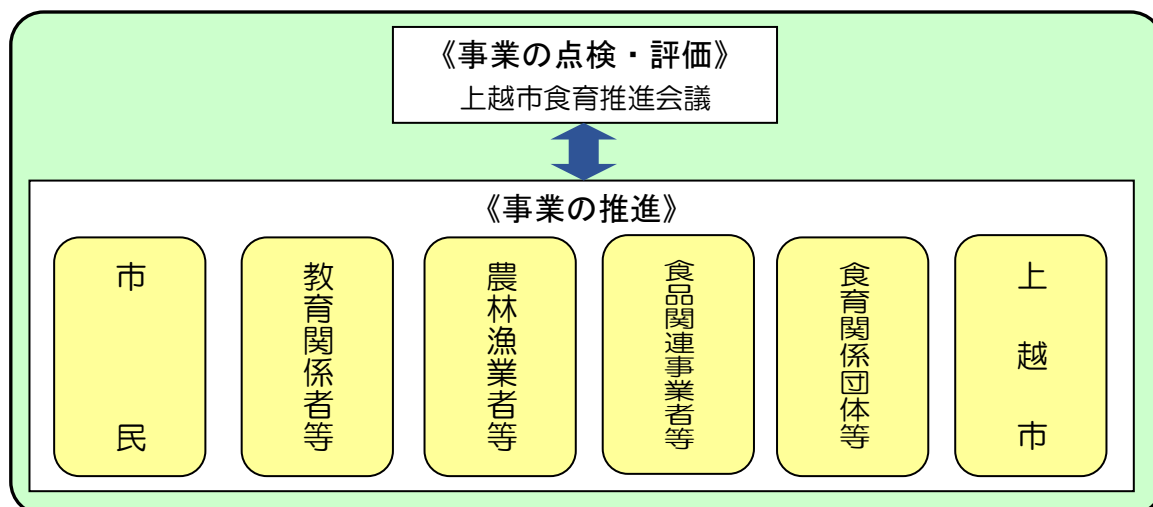
2 アクションプランに掲げる事業の進捗管理

アクションプランの実効性を高めるため、毎年度、各事業の実績や進捗状況を的確に把握・評価し、その成果や反省を次年度の事業にいかします。また、これらを的確に継続することで、今後、想定されている推進計画及びアクションプランの見直しに反映するものとします。



3 アクションプランの推進に対する関係者の役割

推進計画に基づくアクションプランは、下記の関係者が連携して事業を推進していくことが重要です。



(1) 市民の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

全市民が自らの生涯を通じて、規則正しく健全な食生活を心掛けるとともに、食べ物や自然への感謝の念、食を通じたコミュニケーションなど、食の持つ多面的な機能を理解し、家庭や地域の実践主体として食育の推進に寄与することとします。

食育においては、食べ物の安全性や健康への効果を考えて、食を選びとっていく力を身に付けることが求められています。また、食べ物や自然、生産者に対して感謝の気持ちを感じることで、食事を介して家族や友人などと楽しい時間を過ごすこと、郷土料理を始めとした伝統的な食文化を大切に継承することも重要です。

一人一人の市民が食に関連する様々な活動に関心を持って、自らの健全な食生活の実践に役立てていくこと、そして、地域の食育活動に積極的に参加していくことが望まれています。

また、市民同士が集まって、食についての情報交換や学習をすることも必要です。

(2) 教育関係者等の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

教育や保育、介護、その他の社会福祉、医療、保健に関する職務の従事者やそれらの関係機関及び関係団体は、あらゆる機会や場所を捉えて積極的に食育を推進するとともに、他の関係者が行う食育推進活動に積極的に協力するよう努めるものとします。

食育は、あらゆる機会や場所を利用して、子どもからお年寄りまで全ての年代を対象に行われる必要があります。学校や保育園を始め、幼稚園、介護施設等の社会福祉施設、医療機関及び保健に関連する施設等の様々な場面で、食育に触れる機会がより多く提供されることで理解が促進されます。これらの仕事に従事される方々には、施設内での食育の推進と同時に、地域等で行われる食育推進活動へ積極的に参加していくことが望まれます。

(3) 農林漁業者等の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

農林漁業者及び農林漁業に関する団体は、体験活動等を通じて自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について、市民の理解促進を図るとともに、教育関係者等と相互に連携して、食育推進活動を行うこととします。

農林漁業者及び農林漁業に関する団体の皆さんは、食料が自然の恩恵によるものであること、食料の生産には多くの苦勞を伴うことを誰よりもよく知っています。これらの皆さんには、市民が自然の恩恵や生産者の苦勞に触れられる機会を多く得られるよう、食料生産に関する様々な体験活動等を実施していくことが望まれています。

(4) 食品関連事業者等の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

食品の製造、加工、流通、販売又は食事の提供を行う事業者及びこれらが組織する団体は、事業を行うに当たって積極的に食育の推進に努めるとともに、市が実施する食育の推進に関する施策や活動に協力するよう努めるものとします。

食品の製造、加工、流通、販売又は食事の提供を行う事業者及びこれらが組織する団体の皆さんには、食育の活動を意識して積極的にその推進に努めると同時に、様々な食育活動に協力することが望まれています。特に、地域内で生産される食材を積極的に利用する地産地消の取組や、消費者が健康に配慮しながら食を選ぶための情報を提供する取組などを積極的に行うことが求められています。

(5) 食育関係団体等の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

市内で数多く組織されている食育関係者による団体等は、食文化の継承や食生活の改善など様々な食育活動を地域全体で主体的に取り組むこととします。

食育を担う様々な関係団体の皆さんには、これまで培ってきた食育に関する知識を有効活用しながら主体的に活動を行うことで食育活動を地域全体へと広げ、市民運動として「食育」を進めていくことが期待されます。

(6) 市の役割

(第4次食育推進計画に定める役割)

食育に関する情報の収集・発信環境の整備を行うとともに、市民や教育関係者、保健、医療、福祉関係者、農林漁業者、食品関連事業者、食育関係者、市民など、あらゆる機関・団体などと連携を図りながら、総合的に本計画を推進します。

推進計画に基づいて事業を推進するため、関係者と連携して、情報の収集と啓発のための発信を行います。また、同時に食育活動を推進する様々な団体のつながりを強化し、情報共有と協力体制を確立します。さらに、市民団体などが独自に行う各種の食育活動に対して、推進計画に照らして必要な支援を行います。

第2章 食育の推進に関する具体的な事業

1 基本方針1に基づく事業



【基本方針1：生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します】

<指標項目>

No.	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考)		
				県	国	
				最新値 (R1) →目標値 (R6)	最新値 (R2) →目標値 (R7)	
1	朝食を欠食する市民の割合(全く食べない+あまり食べない)	小学生	3.1%	0%	3.3% →0% (小学6年生)	4.6%(R1) →0% (子ども)
		中学生	5.2%	0%	—	—
		高校生	5.2%	3%	—	—
		若い世代 (20歳~39歳)	7.3%	6%	19.8% →15%	21.5% →15%以下
2	虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	93.5% (R2)	95%	90.4%(H30) →95%	—
		12歳	88.3% (R2)	90%	84.4% →90%	—
		17歳	78.0% (R2)	80%	—	—
3	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	45.8%	70%	—	47.3% →55%以上	
4	適正体重を維持している市民の割合	20歳代~60歳代の男性	(69.3%) 49.5%	(変更前 75%) 変更後 50%	—	—
		20歳代~60歳代の女性	(80.6%) 45.3%	(変更前 85%) 変更後 45%	—	—
5	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合	57.0%	72%	—	64.3% →75%以上	

※「適正体重を維持している市民の割合」の目標値は、R4年度数値(男性:48.1%、女性:43.8%)を基に設定している。

(1) 一人一人の年齢や環境に応じた食習慣の確立

① 各ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進

■取組概要

【ライフステージの解説】

乳：乳幼児期 学：学童期
 思：思春期 青：青年期
 壮：壮年期 高：高齢期

【実施主体の解説】

家：家庭 学：学校 地：地域
 行：行政 事：事業者

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
1	妊産期の食育推進	健康づくり推進課	乳学思青壮高 家学地行事	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活がわかり、両親の将来の生活習慣病予防につながる食に関する知識を提供する。
2-1	乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課	乳学思青壮高 家学地行事	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識や生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。
2-2		保育課	乳学思青壮高 家学地行事	
2-3		学校教育課	乳学思青壮高 家学地行事	
3-1	学童期・思春期の食育推進	健康づくり推進課 学校教育課	乳学思青壮高 家学地行事	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体に合わせた食事のとり方等の保健指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣を確立するための支援を行う。
3-2		農政課	乳学思青壮高 家学地行事	高校生の食に対する意識向上を図るため、高等学校の要望に沿った講師を派遣し、部活動やクラス活動、授業等の時間を活用して食育に関する講義や調理実習を行う。
4	青年期・壮年期の保健指導事業	健康づくり推進課	乳学思青壮高 家学地行事	自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心掛け、生活習慣病の予防を啓発する。
5	高齢期の保健指導事業	健康づくり推進課	乳学思青壮高 家学地行事	高齢期の心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状況を考え合わせながら、健康維持・生活習慣病の重症化予防のために必要な適正な食事量の摂取について啓発する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
1	【事業計画】 すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊婦等への食育の啓発を行う。				
	【目標】 低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少	低出生体重児の割合の減少
2-1	【事業計画】 乳幼児健診、離乳食相談会、訪問等を実施し、健全な食生活の啓発を行う。				
2-2	【事業計画】 ・保育園及び認定こども園において、保護者が子の発育状態を視覚的に確認するため、「成長曲線」を活用した取組を行う。 ・肥満傾向の園児には保護者面談等の支援を行う。				
2-3	【事業計画】 ・市立幼稚園において、日常的に紙芝居や絵本などを用いて望ましい食習慣が身に付くよう指導する。 ・「成長曲線」を活用し、肥満傾向にある園児について、保護者と面談して栄養指導等を実施する。				
-	【2-1、2-2、2-3 共通目標】				
	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす	肥満、やせの子どもを減らす
3-1	【事業計画】 学校保健委員会や授業の中で身体の成長や発達にあわせた食事のとり方等について保健指導を行う。				
	【目標】 保健指導により、食に関する正しい知識を持った児童・生徒を増やす。				
	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加	食に関する正しい知識を持った児童・生徒の増加
3-2	【事業計画】 市内高等学校において、高校生の食に対する意識の向上を図る食育に関する講義や調理実習を行う。				
	【目標】 食育に関する講義や調理実習を行う市内高等学校数				
	3校以上	3校以上	3校以上	3校以上	3校以上
4	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
	【目標】 特定保健指導実施率が増加する。				
	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加	特定保健指導実施率の増加
5	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、高齢期における適正な食事量の摂取、生活習慣病予防を働き掛ける。				
	【目標】 適正体重（日本人食事摂取基準：BMI21.5～24.9）の高齢者（65歳以上）を増やす。				
	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加	適正体重の高齢者の増加

② 生活リズムの形成に向けた働き掛け（健全な食習慣の啓発）

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
6-1	健全な食習慣の推進	健康づくり 推進課	乳学思青壮高	各ライフステージの様々な場 面で生活リズムに配慮した健全 な食生活について啓発する。
家学地行事				
6-2		保育課	乳学思青壮高	保育園での様々な場面で生活 リズムに配慮した健全な食生活 について啓発する。
家学地行事				
6-3	学校教育課	乳学思青壮高	全ての小中学校の様々な場 面で生活リズムに配慮した健全な 食生活について啓発する。	
家学地行事				

③ 歯や口の健康の大切さの普及啓発（よく噛んで食べること、歯や口の健康）

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
7-1	歯科保健事業の推進	健康づくり 推進課	乳学思青壮高	各ライフステージの様々な場 面でよく噛んで食べる習慣につ いて啓発する。
家学地行事				
7-2		保育課	乳学思青壮高	保育園の様々な場面でよく噛 んで食べる習慣について啓発す る。
家学地行事				
7-3	学校教育課	乳学思青壮高	市立幼稚園、小中学校の様々な 場面でよく噛んで食べる習慣に ついて啓発する。	
家学地行事				

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
6-1	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
6-2	【事業計画】 保育園で行う「健康教育講座」や「家庭用給食だより」、「食育集会」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
6-3	【事業計画】 全ての小中学校で行う「給食時の放送」や「給食だより」等の中で、朝食をきちんととることの必要性を啓発する。				
	【6-1、6-2、6-3の共通目標】朝食を欠食する市民を減らす。				
	小学生 0% 中学生 0% 若い世代 —	小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.8%	小学生 0% 中学生 0% 若い世代 —	小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6.2%	小学生 0% 中学生 0% 若い世代 6%

※「若い世代」については、食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
7-1	【事業計画】 各ライフステージで行われる歯科保健教育の中で、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。				
7-2	【事業計画】 ・保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、よく噛んで食べることの重要性を啓発する。 ・給食の時間において、園児がよく噛んで食べることができるよう支援する。				
7-3	【事業計画】 ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士等を派遣し、ブラッシング指導や健康な歯を保つための取組を行う。 ・給食の時間において、園児及び児童・生徒がよく噛んで食べることができるよう指導する。				
	【7-1、7-2、7-3 共通目標】 虫歯のない児童・生徒の割合を増やす。				
	3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上	3歳：95%以上 12歳：90%以上 17歳：80%以上
	【7-1、7-2、7-3 共通目標】 ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす。				
	—	55%	—	65%	70%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

④ 生活習慣病の予防につながる食育の推進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
8	メタボリックシンドロームの予防・改善	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高	メタボリックシンドロームにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。
			家 学 地 行 事	
9	適正体重維持の推進	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高	肥満や痩せすぎにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善について啓発する。
			家 学 地 行 事	
10	生活習慣病の予防	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高	健診結果から対象者を特定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。
			家 学 地 行 事	

⑤ 適度な運動の励行

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
11	身体活動や運動習慣の確立	健康づくり推進課	乳 学 思 青 壮 高	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立を働き掛ける。
			家 学 地 行 事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
8	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善方法について啓発する。				
	【目標】 メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合が減少する。				
	メタボリックシンドローム 該当者、予備群の 割合の減少	メタボリックシンドローム 該当者、予備群の 割合の減少	メタボリックシンドローム 該当者、予備群の 割合の減少	メタボリックシンドローム 該当者、予備群の 割合の減少	メタボリックシンドローム 該当者、予備群の 割合の減少
9	【事業計画】 健診結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善方法について啓発する。				
	【目標】 適正体重（ BMI 21.5 以上 24.9 以下 ）を維持している市民を増やす。				
	男性 75 50% 女性 85 45%	男性 75 50% 女性 85 45%	男性 75 50% 女性 85 45%	男性 75 50% 女性 85 45%	男性 75 50% 女性 85 45%
10	【事業計画】 各種教室を開催し、生活習慣病の予防について普及・啓発する。				
	【目標】 生活習慣病の予防や改善のためにふだんから適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している市民を増やす。				
	—	60%以上	—	64%以上	66%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
11	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、運動習慣の確立を働き掛ける。				
	【目標】 健診訪問項目で30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合を増やす。				
	28%	28%	29%	29%	30%

(2) 家庭、学校、地域、その他あらゆる機会及び場所の活用

<指標項目>

No.	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考)		
				県	国	
				最新値 (R1) →目標値 (R6)	最新値 (R2) →目標値 (R7)	
1	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数	週 9 回	週 11 回 以上	—	週 9.6 回 →週 11 回以上	
2	普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合	82.8%	90%以上	—	—	
3	主食・主菜・副菜を 組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ 毎日食べている市 民の割合	全世代	43.6%	80%	44.6% →80%	36.4% →50%以上
		若い世代 (20歳~39歳)	29.0%	55%	32.2% →55%	27.4% →40%以上
4	地域等で共食したいと思う人が共食する割合	42.0%	75%	—	70.7% →75%以上	

(I) 家庭における食育の推進

① 親子で参加・体験できる機会の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
12-1	親子で参加・体験できるイベント等の実施	農政課	乳学思青壮高	親子で参加できる食に関する体験活動を実施し、親と子が食への関心を高め、理解を深める機会を提供する。
			家学地行事	
12-2		農村振興課	乳学思青壮高	「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催し、上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会を提供する。
			家学地行事	

② 食生活の改善に必要な情報の普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
13	食生活の改善に必要な情報提供	農政課	乳学思青壮高	市民一人一人の日常生活の中で食育の実践が定着するよう、国が定めた「食生活指針」や「食育ガイド」により、具体的な取組例を示す。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
12-1	【事業計画】 食育フェアや食育実践セミナーにおいて、親子で参加できる食に関する体験の機会を設ける。				
	【目標】 親子で参加できる食に関する体験の場の提供				
	年2回以上	年2回以上	年2回以上	年2回以上	年2回以上
12-2	【事業計画】 「上越野菜」振興協議会主催による親子食農体験教室を開催する。				
	【目標】 上越野菜のPRのほか、親子のコミュニケーション、食への関心・理解を深める機会の提供				
	年2回以上	年2回以上	年2回以上	年2回以上	年2回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
13	【事業計画】 「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、食に関連した集会等で配布し市民に啓発する。				
	【目標】 「食育ガイド」を活用した食育推進の啓発回数				
	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上

③ 家族揃って食事をする共食の励行

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
14	家庭での共食についての啓発	農政課	乳学思青壮高	家族と一緒に食事をとることは、家族のコミュニケーションの場であるとともに、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発し、家庭での共食を推進する。
			家学地行事	

④ 在宅時間を活用した食育の推進

■取組概要（★第4次計画で新たに取組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
15	★在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供	農政課	乳学思青壮高	家族との共食の有効性や栄養バランスがとれた食事の実践方法、上越の食文化の紹介など、在宅時間に家庭で取り組むことができる食育情報を発信する。
			家学地行事	

(Ⅱ) 学校、保育園等における食育の充実

① 食の体験活動の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
16	保育園での食の体験活動	保育課	乳学思青壮高	子どもたちの食に関する興味や関心が高まるよう、食に関する様々な体験活動を行う。
			家学地行事	
17	幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課	乳学思青壮高	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を行う。
			家学地行事	
18	学校における食育活動の充実	学校教育課	乳学思青壮高	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を行う。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
14	【事業計画】 市ホームページや食育イベント等において、家族と一緒に食事をとることの有効性を啓発し、家庭での共食を推進する。				
	【目標】 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数				
	—	週 11 回以上	—	週 11 回以上	週 11 回以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
15	【事業計画】 ・家庭においても手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページやSNSにより食育情報を提供する。 ・インターネットの利用環境にない市民に向け、紙媒体においても食育情報を提供する。				
	【目標】 インターネット及び紙媒体による在宅時間を有効に活用できる食育情報の提供回数				
	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上	年 3 回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
16	【事業計画】 体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	【目標】 体験活動により、子どもたちの食に関する興味・関心を高める。				
	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上	子どもの食への 興味・関心の向上
17	【事業計画】 体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	【目標】 市立幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施	食に関する活動の 実施
18	【事業計画】 「給食だより」を毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。				
	【目標】 事業実施により、食に対する正しい知識を持った児童生徒を増やす。				
	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加	食の正しい知識を 持った児童生徒の 増加

② 食に関する実践的な教育活動の推進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
19	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課	乳学思青壮高	学校・家庭・地域が連携し、児童生徒が自ら健全な食習慣を実践できるよう教育活動を行う。
			家学地行事	

③ 特色ある食育推進に対する支援

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
20	小中学校における特色ある食に関する食育活動の推進	学校教育課	乳学思青壮高	それぞれの地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育推進を支援する。
			家学地行事	

(Ⅲ) 地域における食生活改善に向けた取組の推進

① 栄養バランスを意識した食生活の促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
21	栄養バランスを意識した食生活の促進	健康づくり推進課	乳学思青壮高	各ライフステージの様々な事業で食品の基準量の普及・啓発を通じて、バランスのとれた食生活を推進する。
			家学地行事	

② 栄養バランスに優れた日本型食生活の普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
22	日本型食生活の普及活動	農政課	乳学思青壮高	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を推進するため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じてその普及を図る。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
19	【事業計画】 全ての小中学校で家庭や地域と連携する取組を実施する。（給食試食会や食に関する学校保健委員会など）				
	【目標】 児童・生徒がの栄養バランスのとれた食事や健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図るについて理解を深め実践する。				
	児童・生徒が健全な食習慣の理解を深め実践する。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。	児童・生徒の健全な食習慣を支援するよう家庭への啓発を図る。

※R5年度から目標の文言を変更

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
20	【事業計画】 小中学校において充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。				
	【目標】 地域や学校の伝統・文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増やす。				
	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加	特色をいかした食育を実践している学校の増加

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
21	【事業計画】 各ライフステージで行われる健康教育の中で、バランスのとれた食事をとることの重要性を啓発する。				
	【目標】 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日実践している市民を増やす。				
	—	全世代 60% 若い世代 45%	—	全世代 75% 若い世代 55%	全世代 80% 若い世代 55%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
22	【事業計画】 市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、日本型食生活のメリットや実践例を紹介し、市民の実践につなげる。				
	【目標】 日本型食生活を実践している市民を増やす。				
	—	74.1%以上 (R3 アンケート結果比較)	—	R5 アンケート結果以上の値	R7 アンケート結果以上の値

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

③ 地域での共食に対する支援

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
23	地域や職場での共食の有効性の発信	農政課	乳学思青壮高	孤食が多い人が様々な人たちと食事をする機会を増やすため、市ホームページやSNS、イベント等での配布物などを通じて、地域での共食の有効性を紹介し、「新しい生活様式」に対応した地域での共食につなげる。
			家学地行事	

2 基本方針2に基づく事業



【基本方針2：地域や家庭で受け継がれてきた食文化を継承します】

<指標項目>

	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考)	
				県	国
				最新値 (R1) →目標値 (R6)	最新値 (R2) →目標値 (R7)
1	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	67.3%	75%	—	50.4% →55%以上
2	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代(20歳～39歳)の市民の割合	61.8%	65%	—	—
3	郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合	46.9%	50%以上	—	44.6% →50%以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
23	【事業計画】 市ホームページやSNS、イベント等での配布物により、地域での共食の有効性を紹介し、市民の実践につなげる。				
	【目標】 地域等で共食したいと思う市民が共食する割合				
	—	55%以上	—	68%以上	75%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

(1) 郷土の優れた食文化の継承

① 郷土料理や行事食の継承と普及

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
24	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課	乳学思青壮高	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行い、料理教室や食をテーマとする体験講座を実施することで、郷土料理や食文化の関心を高め、普及・継承につなげる。
			家学地行事	
25	謙信 KIDS プロジェクト	社会教育課	乳学思青壮高	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、各種活動を通じてその魅力を体験させることで、郷土への愛着の育成を図る。
			家学地行事	
26	「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター	乳学思青壮高	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。
			家学地行事	
27	SNS 等を活用した若い世代への郷土料理の継承	農政課	乳学思青壮高	郷土料理になじみの薄い若い世代に向け、SNS 等にレシピや由来を掲載し、郷土料理の継承につなげる。
			家学地行事	
28	地場産食材、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	教育総務課	乳学思青壮高	給食献立において、地場産食材、郷土料理を取り入れるなど、「上越の食」について考える取組を行う。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
24	【事業計画】 公民館事業で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。				
	【目標】 郷土料理や食文化について理解を深め、興味・関心を高めた参加者の割合				
	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
25	【事業計画】 謙信 KIDS プロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。				
	【目標】 講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を90%以上とする。				
	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
26	【事業計画】 上越の発酵食品をホームページやイベント等で広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。				
	【目標】 SNSでの情報発信により、上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる。				
	情報発信回数：月1回	情報発信回数：月1回	情報発信回数：月1回	情報発信回数：月1回	情報発信回数：月1回
27	【事業計画】 料理レシピ検索サイトに上越の郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピや由来を掲載する。				
	【目標】 郷土料理や上越の旬の食材を使用したレシピの投稿回数				
	月1回	月1回	月1回	月1回	月1回
	【目標】 郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている市民の割合				
	— ※	48%	—	49%	50%以上
28	【事業計画】 毎月、地場産食材や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。				
	【目標】 地場産食材や郷土料理を取り入れた給食献立の提供回数				
	月1回	月1回	月1回	月1回	月1回

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

3 基本方針3に基づく事業



【基本方針3：食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりを推進します】

＜指標項目＞

	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考)		
				県	国	
				最新値 (R1) →目標値 (R6)	最新値 (R2) →目標値 (R7)	
1	食育に関心を持っている市民の割合	77.7%	90%以上	56.6% →90%	83.2% →90%以上	
2	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	69.0%	90%	—	75.2% →80%以上
		若い世代 (20歳～39歳)	63.7%	70%	—	—

(1) 食育推進に向けた連携促進

① 情報共有による食育関係団体の連携促進

■取組概要 (★第4次計画で新たに取り組む事業)

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
29	★食育関係団体の食育活動の集約と情報発信	農政課	乳学思青壮高	市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約し、市ホームページ等で市民に広く周知する。
			家学地行事	

② 医療機関や大学、研究機関等との連携

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
30	健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課	乳学思青壮高	医療機関等の関係機関と連携し、健康や医療の最新状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
29	【事業計画】 市内で行われる食育に関するイベントや教室、体験活動等を集約する体制を整備し、集約した食育情報は時宜を捉えて市民へ発信する。				
	【目標】 食育情報集約体制の整備				
	集約した市内の食育情報の発信回数				
	月1回以上	月1回以上	月1回以上	月1回以上	月1回以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
30	【事業計画】 健康づくり推進協議会を開催し、医療機関等の関係機関との協議から得た知見を、食育推進施策に活用する。				
	【目標】 健康づくり推進協議会の開催回数				
	健康づくり推進協議会の開催回数				
	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回

(2) 食育情報の発信と共有

① 食育の実践につながる情報発信

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
31	食育に関する積極的な情報提供	農政課 関係課	乳学思青壮高	市ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内の食育活動やイベント、食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。
			家学地行事	
32	学校給食だよりの発行による情報提供	教育総務課	乳学思青壮高	毎月、学校給食だよりを発行し、給食献立や旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。
			家学地行事	
33	「食育月間」や「食育の日」を中心とした食育推進運動	農政課 関係課	乳学思青壮高	6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」を中心に、市民向けのイベントを開催するほか、市ホームページや広報上越等を通じた食育の実践の定着につながる情報を発信する。
			家学地行事	

② 食育の実践につながる体験の場の提供

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
34	食育実践セミナーの開催	農政課 関係課	乳学思青壮高	食に関する講演会や食体験を通じて、市民の食への関心を高めるとともに、家族や自らの食生活を考え、食育の実践の定着につながる機会とする「食育実践セミナー」を開催する。
			家学地行事	

③ 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

■取組概要（★第4次計画で新たに取り組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
35	★デジタル技術を活用した食育情報の発信	農政課	乳学思青壮高	市民がいつでも手軽に食育情報が入手できるよう、市ホームページやSNSを活用して食育情報を発信する。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
31	【事業計画】 市ホームページや SNS、広報上越、メディア等を通じて、市民へ食育情報を定期的に発信する。				
	【目標】 食育情報の発信回数				
	月 4 回以上	月 4 回以上	月 4 回以上	月 4 回以上	月 4 回以上
32	【事業計画】 ・学校給食だよりを作成し、保護者へ提供する。				
	【目標】 給食だよりの発行回数				
	月 1 回	月 1 回	月 1 回	月 1 回	月 1 回
33	【事業計画】 ・6月の食育月間に「食育フェア」を開催するとともに、食育の実践につながる食育情報を保育園、学校等に配布し啓発する。 ・毎月19日の食育の日に「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」を市ホームページ、SNSに掲載する。 ・市ホームページや広報上越を通じて、定期的に食育情報を発信する。				
	【目標】 「食育月間」及び「食育の日」の認知度の向上				
	—	24.3%以上 (R3アンケート結果比較)	—	R5アンケート 結果以上の値	R7アンケート 結果以上の値

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
34	【事業計画】 市内の食育関係団体や庁内食育推進関係課と連携して、食育実践セミナーを開催する。				
	【目標】 食育実践セミナーの開催回数				
	年 1 回	年 1 回	年 1 回	年 1 回	年 1 回
	【目標】 食育に関心を持っている市民の割合				
—	82.5%	—	87.5%	90%以上	

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
35	【事業計画】 市ホームページ及び SNS から食育情報を随時発信する。				
	【目標】 市ホームページ及び SNS に食育情報（食育関係情報全て）を発信する回数				
	月 3 回以上	月 3 回以上	月 3 回以上	月 3 回以上	月 3 回以上

(3) 食の安全性の確保

① 食の安全性に関する情報提供

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
36	食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課	乳学思青壮高	国、県からの食の安全に関する健康被害情報を市ホームページや広報紙を活用して情報提供する。
			家学地行事	
37	農林水産物等の放射性物質検査等の情報発信	農村振興課 農林水産整備課	乳学思青壮高	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果や残留農薬検査結果などを市民に情報提供する。
			家学地行事	

② 食品表示の理解促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
38	食品表示に関する普及啓発	農村振興課	乳学思青壮高	市民一人一人が安全で安心な食生活を送ることができるよう、食品表示に関する知識の普及を図る。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
36	【事業計画】 県からの食の安全に関する健康被害情報等を市ホームページや広報紙などを活用し、情報提供する。				
37	【事業計画】 必要に応じ、県からの農林水産物等の放射性物質の検査結果を市ホームページで周知する。				

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
38	【事業計画】 県からの食品表示の情報について市ホームページや食育実践セミナーなどのイベントにおいて、情報提供する。				
	【36、37、38 共通目標】 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合				
	—	全世代 77% 若い世代 66%	—	全世代 85% 若い世代 69%	全世代 90% 若い世代 70%

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

4 基本方針4に基づく事業



【基本方針4：上越の農林漁業への理解を促進します】

<指標項目>

No.	指標項目	策定時 (R3)	目標値 (R8)	(参考)	
				県	国
				最新値 (R1) →目標値 (R6)	最新値 (R2) →目標値 (R7)
1	学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合	13.3% (R2)	20%	—	—
2	地域食材を積極的に活用する飲食店（地産地消推進の店）の認定店数	170 軒 (R2)	180 軒 以上	—	—
3	環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	63 組織 929ha	91 組織 1,473ha	—	—
4	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	58.0%	75%以上	—	67.1% →75%以上
5	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	91.1%	92%以上	R3 把握 →80%	76.5%※ →80%以上 ※は R1 数値

(1) 地域内での自給を基本とした地産地消の推進

① 学校給食における地場産物（青果物）の使用量の拡大

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
39	地場産物（青果物）を使用した給食の提供	教育総務課 農政課	乳学思青壮高	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産物（青果物）の利用促進を図る。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
39	【事業計画】 関係団体等との連携を強化し、地場産物（青果物）の利用を促進する。				
	【目標】 学校給食の地場産物（青果物）の使用量の拡大				
	地場産物（青果物） の使用率 16%以上	地場産物（青果物） の使用率 17%以上	地場産物（青果物） の使用率 18%以上	地場産物（青果物） の使用率 19%以上	地場産物（青果物） の使用率 20%

② 地産地消の推進

■取組概要（★第4次計画で新たに取組む事業）

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
40	★上越産農産物等の情報発信	農村振興課	乳学思青壮高	「上越野菜」を始めとした、上越産農産物等のPR、販売促進及び農産物直売所への誘客を図るため、上越産農産物等に関する情報を発信する。
			家学地行事	
41	地産地消推進の店認定事業	農政課	乳学思青壮高	小売店や飲食店等に地域食材を積極的に活用するよう働き掛けるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認定を行う。 さらに「プレミアム認定店」を認定し、認定店から地産地消の情報発信を行うことで、地産地消の推進を図る。
			家学地行事	

(2) 生産者と消費者の信頼関係の確立

① 生産者と消費者の相互理解の促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
42	農産物直売所と消費者のつながり強化	農村振興課	乳学思青壮高	消費者に上越の食と農の魅力を知ってもらい、積極的に選んでもらえるよう、直売所と消費者がつながる機会を提供する。
			家学地行事	

② 地域で行われている農林漁業体験活動の情報提供の充実

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
43	農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課	乳学思青壮高	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報をとりまとめ、情報提供を行う。
			家学地行事	

③ 農林漁業体験を通じた都市と農村の交流促進

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
44	都市・農村交流促進	農村振興課	乳学思青壮高	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
40	【事業計画】 「上越野菜」を始めとした上越産農産物等に関する情報発信を行う。				
	【目標】 Facebook での情報発信の回数				
	年 24 回	年 24 回	年 24 回	年 24 回	年 24 回
41	【事業計画】 認定事業を周知し、地域食材を積極的に取り扱う市内の小売店、飲食店等を地産地消推進の店に認定する。				
	【目標】 認定事業の周知を行い、地域食材を積極的に活用する地産地消推進の店を増やす。				
	・地産地消推進の店 認定数：172 軒 ・プレミアム認定店 ÷18 軒以上	・地産地消推進の店 認定数：174 軒 ・プレミアム認定店 ÷20 軒以上	・地産地消推進の店 認定数：176 軒 ・プレミアム認定店 ÷22 軒以上	・地産地消推進の店 認定数：178 軒 ・プレミアム認定店 ÷24 軒以上	・地産地消推進の店 認定数：180 軒 ・プレミアム認定店 ÷26 軒以上

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
42	【事業計画】 消費者と直売所がつながる機会を提供する直売所を知るツアー等イベントを開催する。				
	【目標】 事業の参加者数				
	10 人	10 50 人	10 50 人	10 50 人	10 50 人

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
43	【事業計画】 市ホームページや広報上越等による情報提供を行う。				
	【目標】 市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする。				
	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新	情報の提供と更新

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
44	【事業計画】 農作業体験やオンライン等による都市との交流事業を実施する。				
	【目標】 都市との交流体験者数				
	330 人	330 人	350 人	350 人	350 人

(3) 環境と調和のとれた持続可能な農林漁業の発展

① 安全・安心な農林水産物の安定供給と消費拡大の推進

■取組概要 (★第4次計画で新たに取り組む事業)

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
45	環境保全型農業の推進	農政課	乳学思青壮高	今後ニーズが見込まれる有機農産物に対応するため、有機農業に取り組んでいる農業者を講師に、有機農業の実情を学ぶ研修会を開催し、有機農業に取り組む農業者の裾野を拡大する。
			家学地行事	
46	★環境と調和した方法で作られた農林水産物や食品の消費喚起	農政課	乳学思青壮高	持続可能な農林水産業の発展につなげるため、市民に対し化学合成農薬や化学肥料の使用を控えた環境と調和した生産方法による農林水産物や食品を消費することの意義を伝え、市民の消費につなげる。
			家学地行事	

② 食品ロス削減に向けた取組の啓発

■取組概要

No.	事業名	事業担当課	ライフステージ	取組の概要
			実施主体	
47	食品ロス削減に向けた取組の推進	農政課	乳学思青壮高	食品ロスの削減は、資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながることから、家庭や外食時における食品ロス削減に向けた取組を啓発する。
			家学地行事	

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
45	【事業計画】 食の安全や自然環境の保全につながる有機農産物の生産を推進するため、農業者に対し、環境保全型農業直接支払交付金を活用し支援する。				
	【目標】 環境保全型農業に取り組んでいる面積の維持と、有機農業に取り組んでいる面積の拡大				
	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：75ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：80ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：85ha	環境保全型農業に取り組んでいる面積：1,896ha うち、有機農業に取り組んでいる面積：90ha
46	【事業計画】 環境と調和した生産方法による農林水産物の消費を推進するため、市民に対し、それらを消費することの意義を発信する。				
	【目標】 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合				
	—	65%	—	72%	75%以上

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。

■年度別計画（事業計画及び目標）

No.	年度別計画（事業計画及び目標）				
	R4	R5	R6	R7	R8
47	【事業計画】 市ホームページやSNS、イベントにおいて食品ロスの現状や削減に向けた方策を周知する。				
	【目標】 宴会時の食べきり運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べきろう 20・10 運動」を始めとした食品ロス削減に向けた取組の啓発回数				
	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上	年3回以上
	【目標】 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合				
—	92%以上	—	92%以上	92%以上	

※食育市民アンケートの実施年度に目標値を設定する。